

# 平安京右京一条二坊四町跡

2017年

国際文化財株式会社

# 平安京右京一条二坊四町跡

2017年

国際文化財株式会社

## 例 言

1. 本書は、京都市上京区御前通下立売下る下之町 412-1 における、平安京右京一条二坊四町跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、株式会社 TYM（京都市北区西賀茂水垣町 83 番地 1）の計画する建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 92 条の規定により、京都府教育委員会に届出をし、8 教文第 5 号の 67 で許可を受け、文文財第 956 号の受付番号 16H357 で通知され実施したものにあたる。
3. 調査の体制は、京都府教育庁指導部文化財保護課並びに京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導のもとに、国際文化財株式会社西日本支店が実施した。
4. 発掘調査の面積は、168m<sup>2</sup>である。
5. 現地調査の期間は、平成 28 年（2016）11 月 17 日～平成 29 年（2017）1 月 13 日まで実施した。
6. 発掘調査及び本報告書作成にあたっては、下記の体制にて行った。

主任調査員 長林 大

補 助 員 大橋裕子・谷口有紀子

整 理 員 加藤麻理・川端桂子・谷口有紀子

作 業 員 株式会社アート

7. 発掘調査及び整理作業は、長林が担当した。

8. 遺構・遺物の写真撮影、本書の執筆、編集は、長林が行った。

9. 発掘調査及び整理作業、報告書作成にあたっては、下記の方々及び関係機関のご指導、ご協力を得ることができた。ご芳名を記して感謝の意を表します。

内田好昭、馬瀬智光、奥井智子、島本行広、武田 豊、山田邦和（五十音順、敬称略）

京都府教育庁指導部文化財保護課、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、

（公財）京都市埋蔵文化財研究所、株式会社 TYM、株式会社アート

凡例

1. 遺構の計測に使用した座標値は、世界測地系（測地成果 2011）に基づいており、方位は座標北を真北として表記し、単位（m）を省略した。標高は海拔高（東京湾平均海面高度）を使用し、本文中では「T.P.」を省略している。
  2. 本書で使用した地図は、京都市発行の都市計画基本図（1:2,500）「花園」「聚楽廻」を調整して使用した。
  3. 本書で使用した色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄、1994）に準拠した。
  4. 遺構図は各図にスケールを掲載し、原則として縮尺を 40・80・100・120・200・300 分の 1 とした。
  5. 遺物実測図は各図スケールを掲載し、原則として縮尺を 3 分の 1 と 4 分の 1 とした。
  6. 本書に収録した図や資料等の引用参考文献は、各章末に註として掲載した。
  7. 遺構の分類は、下記の呼称を用いた。  
建物（SB） 檻（瑚）（SA） 溝（SD） 土坑（SK） 井戸（SE） 路（SF） 柱穴（P）
  8. 出土遺物には、通し番号を付した。実測図・写真図版共に一致している。
  9. 年代については、下記の文献を使用している。

小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要第3号』財團法人  
人間文化研究所 1996年

小森俊寛『京から出土する土器の編年的研究—日本律令的土器様式の成立と展開、7～19世紀—』  
京都編集工房 2005年

# 本文目次

例言 / 凡例 / 目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 位置と歴史的環境	5
第1節 遺跡の位置と歴史的環境	5
第2節 周辺の調査	7
第3章 遺構	8
第1節 基本層序	8
第2節 遺構	11
(1) 平安時代後期の遺構	13
(2) 鎌倉時代の遺構	17
(3) 近世の遺構	19
第4章 遺物	24
第1節 遺物の概要	24
第2節 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物	24
第3節 近世の遺構出土遺物	29
第4節 包含層の出土遺物	35
第5節 遺構より出土した瓦	35
第5章 まとめ	40

観察表・図版

抄録 / 奥付

## 挿図目次

図 1 調査地の位置図 1 (1:500,000)	1	図 15 SK20・21 断面図	17
図 2 平安京寺坊復元における調査地位置図 (1:40,000)	2	図 16 SK27 遺物出土状況・断面図	18
図 3 調査地位置図 2 (1:2500)	3	図 17 1面遺構平面図	20
図 4 調査地の地区割りと試掘トレンチ位置図 (1:600)	3	図 18 SD2 平面・断面図	21
図 5 調査前全景 (南東から)	4	図 19 SE2・3 平面・断面図、SK23 断面図	23
図 6 第1面遺構調査作業 (南東から)	4	図 20 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 1	25
図 7 四行八門と調査位置図 (1:2,500)	5	図 21 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 2	26
図 8 周辺調査位置図 (1:2,500)	6	図 22 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 3	27
図 9 北壁・南壁土層断面図	9	図 23 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 4	28
図 10 東壁・西壁土層断面図、Tr1 西壁土層断面図、 Tr2 北壁土層断面図	10	図 24 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 5	29
図 11 2面遺構平面図	12	図 25 近世の遺構出土遺物 1	30
図 12 建物 1 平面・断面図	14	図 26 近世の遺構出土遺物 2	32
図 13 建物 2 平面・断面図	15	図 27 近世の遺構出土遺物 3	34
図 14 建物 3 平面・断面図	16	図 28 包含解出土遺物、遺構より出土した瓦 1	37
		図 29 遺構より出土した瓦 2	38
		図 30 遺構より出土した瓦 3	39

## 表目次

表 1 周辺調査地一覧	7	表 3 遺物観察表 1 ~ 7	41 ~ 47
表 2 出土遺物類表	24	表 4 遺物観察表 1 (IV)	47

## 図版目次

- 図版 1  
1 第2面 完掘状況（東から）  
2 第1面 完掘状況（東から）  
図版 2  
3 確認調査 Tr1 完掘状況（北東から）  
4 確認調査 Tr2 完掘状況（南から）  
5 調査区北壁 全景（南西から）  
6 調査区南壁 全景（北西から）  
7 調査区東壁 全景（西から）  
8 調査区西壁 全景（南東から）  
9 確認調査 Tr1 西壁 全景（東から）  
10 確認調査 Tr2 北壁 全景（南東から）  
図版 3  
11 建物 1 完掘全景（西から）  
12 建物 1-P18 完掘状況（南から）  
13 建物 1-P15 断面（南から）  
14 建物 1-P15 根固め検出状況（南から）  
15 建物 1-P15 完掘状況（南から）  
16 建物 1-P21 断面（南から）  
17 建物 1-P21 根固め検出状況（南から）  
18 建物 1-P21 完掘状況（南から）  
図版 4  
19 建物 1-P14 断面（南から）  
20 建物 1-P14 根固め検出状況（南から）  
21 建物 1-P14 完掘状況（南西から）  
22 建物 1-P22 断面（南から）  
23 建物 1-P22 根固め検出状況（南から）  
24 建物 1-P22 完掘状況（南から）  
25 建物 1-P11 断面（南東から）  
26 建物 1-P11 根固め検出状況（南東から）  
図版 5  
27 建物 1-P11 完掘状況（南東から）  
28 建物 1-P54 断面（東から）  
29 建物 1-P54 根固め検出状況（東から）  
30 建物 1-P54 完掘状況（東から）  
31 建物 2・3 完掘全景（東から）  
32 建物 2-P1 完掘状況（南から）  
33 建物 2-P2 断面（南から）  
34 建物 2-P2 根固め検出状況（南から）  
図版 6  
35 建物 2-P2 完掘状況（南から）  
36 建物 2-P3 断面（西から）  
37 建物 2-P3 完掘状況（西から）  
38 建物 2-P4 断面（西から）  
39 建物 2-P4 完掘状況（西から）  
40 建物 2-P5 完掘状況（東から）  
41 建物 2-P6 断面（東から）  
42 建物 2-P6 完掘状況（東から）  
図版 7  
43 建物 2-P7 断面（東から）  
44 建物 2-P7 完掘状況（東から）  
45 建物 3-P1 断面（南から）  
46 建物 3-P1 完掘状況（南から）  
47 建物 3-P2 断面（南から）  
48 建物 3-P2 完掘状況（南から）  
49 建物 3-P3 断面（南から）  
50 建物 3-P3 完掘状況（南から）  
図版 8  
51 SK20 断面（北から）  
52 SK20 完掘状況（北から）  
53 SK21 断面（南から）  
54 SK21 完掘状況（北から）  
55 SK27A 断面 上層堆積状況（北から）  
56 SK27B 断面 上層堆積状況（西から）  
57 SK27A 断面 下層堆積状況（北から）  
58 SK27B 断面 下層堆積状況（西から）  
図版 9  
59 SK27 遺物出土状況（西から）  
60 SK27 完掘状況（西から）  
図版 10  
61 SD2 A 断面（西から）  
62 SD2 B 断面（西から）  
63 SD2 北壁堆積状況（南から）  
64 SD2B 断面 10種類物堆積状況（西から）  
65 SD2 完掘状況（西から）  
図版 11  
66 SE2 断面（南西から）  
67 SE2 完掘状況（南西から）  
68 SE3 断面（北から）  
69 SE3 完掘状況（南から）  
70 SK11 完掘状況（南から）  
71 SK23 断面（南から）  
72 SK23 完掘状況（南から）  
73 SK25 完掘状況（南から）  
図版 12  
平安時代後期・鎌倉時代の遺構出土遺物  
図版 13  
鎌倉時代の遺構出土遺物  
図版 14  
鎌倉時代の遺構出土遺物  
図版 15  
鎌倉時代の遺構出土遺物  
図版 16  
鎌倉時代・近世の遺構出土遺物  
図版 17  
近世の遺構出土遺物  
図版 18  
近世の遺構出土遺物  
図版 19  
近世の遺構出土遺物  
図版 20  
平安時代後期・鎌倉時代の遺構出土遺物  
図版 21  
鎌倉時代・近世の遺構出土遺物  
図版 22  
平安時代後期・鎌倉時代・近世遺構、包含層の出土遺物

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

今回、京都市上京区御前通下立売下の下之町412-1において、株式会社TYMにより簡易宿所建設工事が計画された。敷地面積は637.63m<sup>2</sup>で、建築面積は343.69m<sup>2</sup>である。

当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「平安京跡(右京一条二坊四町)」に該当する(図1~3)。そのため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下、(市文化財保護課))という。は、これらの状況を踏まえて、建設範囲内の遺構・遺物の有無、残状況を把握するために、建築範囲内のはば中央部に南北長1m、東西幅19.5mの1Tr(図4)を設定し、試掘調査を行った。

試掘調査は、表土及び近世の盛土層を重機により掘削し、それより下層に残存していると考えられる包含層と遺構の確認が行われた。

その結果、表土より約65~75cm下層において、黒色砂礫と黒色泥砂の平安時代から中世にかけての包含層を検出し、その包含層上面において鎌倉時代の土師器を含む遺構を検出、同時期頃と考えられる遺構が数基検出され、当地には平安時代から中世にかけての包含層及び遺構が残存することが明らかになった。

これらの成果から、発掘調査の必要性が生じたため、株式会社TYMと市文化財保護課との間において発掘調査の事前協議が行われた。その結果、発掘調査は市文化財保護課が指定する南北長8m、東西幅21mの調査範囲168m<sup>2</sup>を建築建物範囲内に設定し、本調査を行うこととなった。

発掘調査は、京都府教育府指導部文化財保護課及び市文化財保護課の指導を受け、株式会社TYMより委託を受けた国際文化財株式会社が実施した。

## 第2節 調査の経過

調査体制は、調査員1名、補助員2名を配置した。

調査区の地区割りは、世界測地系6系の座標に基づいた4mの地区割付(図4)を設定した。地区名については、調査区の北西角を起点とし、南北方向をアルファベットによるA区からC区とし、東西方向を1区から6区とした。ただし、調査終了時に調査区北側に設定した確認調

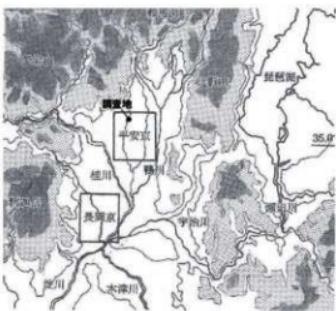


図1 調査地の位置図1 (1:500,000)

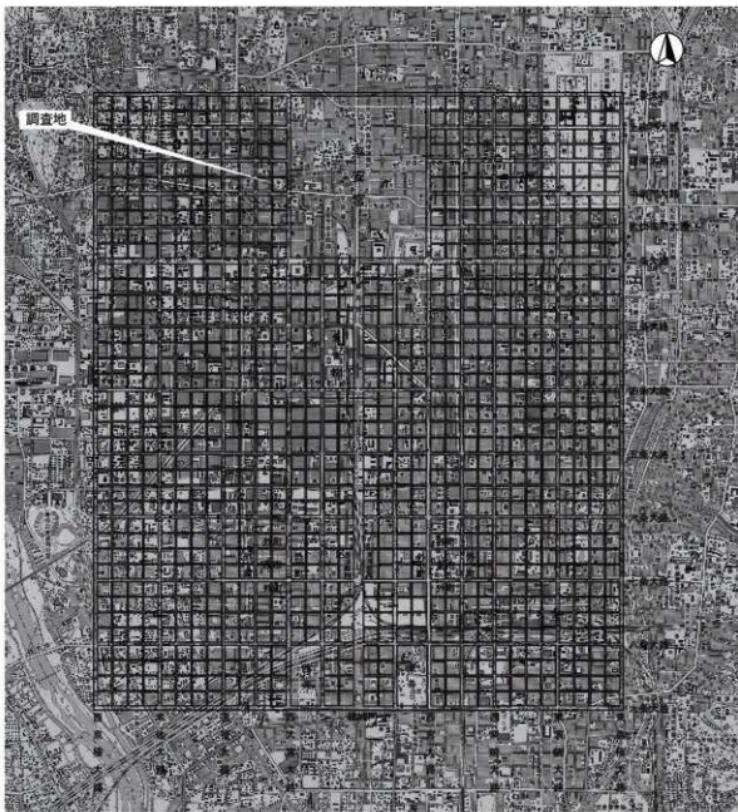


図2 平安京条坊復元における調査地位置図 (1:40,000)

査範囲が南北方向のA区から外れてしまったため、A'区を新たに付することで対応している。

基準点は、調査区南東角にT001 (X=-108792.4120 Y=-24109.7640 Z=45.495)、北西角にT002 (X=-108782.2850 Y=24133.7020 Z=45.389) の2点を設置した。

平成28年11月17日に調査地において調査区範囲設定作業を行い、11月21日より調査事務所・仮設電気・仮設水道設備の設置及び調査道具類等の搬入を行った。

同日午後より、試掘調査を行った1Trの西側の一部を重機により掘削し、堆積状況の確認及び検証を行った。その後、調査区南西端部から表土掘削作業を開始した。また、調査区北側に設定した排土置き場は民家に近接しているため、表土掘削作業と並行して排土置き場の北側、西側と東側に単管と合板を使用して土留めの壁を設置した。なお、掘削地の崩落、粉塵の飛散防止等の

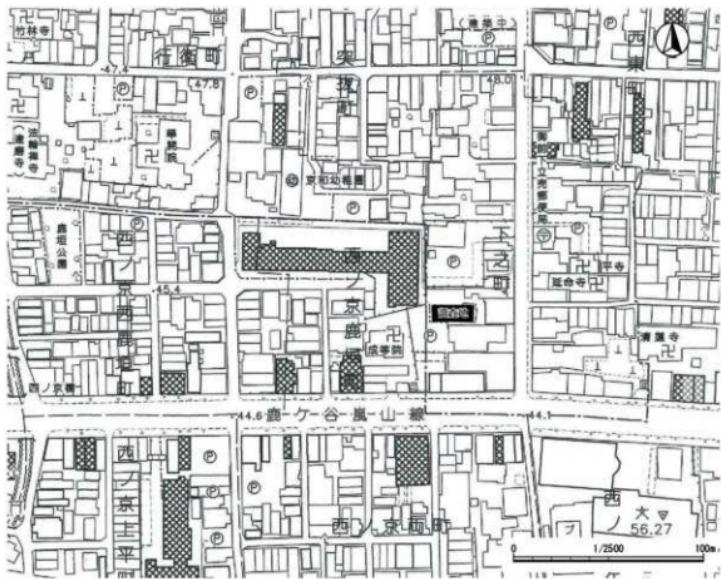


図3 調査位置図2 (1:2,500)

予防のために調査区と排土にはシートによる養生を行った。

重機掘削では、試掘調査の結果とほぼ同様に、表土より約60cm下層において、黒褐色土の包含層を検出した。検出した箇所は人力による掘削作業に切り替え、遺構の確認作業を行った。重機による掘削作業は、11月22日に市文化財保護課の確認を受け終了した。

11月24日より、遺構検出作業及び、重機掘削で除去しきれなかった近・現代の搅乱の掘削作業を行い、11月29日に1面検出全景写真を撮影した。同日、遺構掘削作業を開始した。

1面目において検出した遺構は、そのほとんどが近世に属する遺構で、土取り穴と考えられる大型土坑や、井戸跡等が多数検出された。また、近世の区画の溝跡と考えられるSD2を検出している。これら近世の遺構を掘

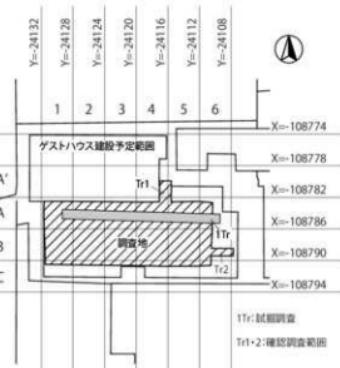


図4 調査地の地区割りと  
試掘トレンチ位置図 (1:600)

削した後、同面で確認された平安時代から中世の建物跡、廃棄土坑等の調査を行った。

12月21日に1面目の完掘全景写真を撮影した後、調査途中であった中世の廃棄土坑の遺物の取り上げ作業及び測量作業を行った。その後、包含層掘削作業と2面目遺構検出作業を行い、12月26日に2面目の遺構検出全景写真を撮影した。12月27日に調査区及び周辺の養生作業を行い、年内の調査は終了した。

翌年の平成29年1月5日より調査を再開し、2面目の遺構掘削作業を行った。2面目の遺構は明黄褐色シルトの地山直上で検出しておらず、上層の遺構等に削平されているため、遺物も少なく、残存状況もあまり良好ではなかったが、遺構の形状等から平安時代と考えられる建物とピットを数基検出した。

1月7日に2面目の完掘全景写真を撮影した後、調査区壁面の測量作業等と並行して道具類の撤収作業を行った。1月10日より重機により調査区内の埋め戻し作業を開始した。

1月11日には、埋め戻し作業と並行して、調査区東側に想定される西大宮大路に関連する遺構の確認のため、南北長1m、東西幅2.8mのTr2を設定し、確認調査を行った。表土から約96cm下層の地山直上で掘削を行ったが、近世以降の井戸跡2基しか検出されず、西大宮大路に関連する遺構は検出されなかった。また、1面目の調査区北壁面直下で検出した建物1は、東西方向に延びる柱穴を6基検出していたが、調査区内において南北方向に延びる柱穴が検出されていなかった。そのため、調査区北側に南北長3m、東西幅1.5mのTr1を設定し、確認調査を行った。その結果、4基の遺構と上述した柱穴に並ぶ1基の柱穴と、建物2の南北方向に並ぶ柱穴を確認し、建物1・2は、北側に展開することが確認できた。1月12日にTr1・2の完掘写真を撮影し、測量作業終了後、埋め戻し作業を行った。1月13日に全ての機材等の搬出作業は終了し、現地調査は終了した。



図5 調査前全景（南東から）



図6 第1面遺構掘削作業（南東から）

## 第2章 位置と歴史的環境

### 第1節 遺跡の位置と歴史的環境

当調査地は京都盆地の南西部に位置し、南側は、西日本旅客鉄道山陰本線の円町駅の北側に位置する丸太町通、東側は御前通に面する。<sup>(1)(2)</sup>

平安京条坊復元図では、平安京右京一条二坊四町の北五門と北六門、東一行と西大宮大路の土地区画に相当している（図7）。平安時代の調査地周辺は、「拾芥抄」「西京図」によると本調査地の位置は「井殿」と記述されており、実態は不明であるが邸宅地である。調査地の東側は西大宮大路である。本調査地の北側の三町には右兵衛府の厨町「右兵衛町」があり、六町には「采女町」が所在している。西側は空白地である。また、同坊内の一・二町には、兵庫寮の厨町である「兵庫町」、八町には「隼人司」、九・十町には「右近町」、十一町には「徐弘知行」とあり、西獄管理者の私領であったと考えられており、十三・十四町に見られる「藤原徐弘知行」も同様に西獄管理者の私領であった。十二町には、京内に設けられた二ヵ所の獄舎のうちの一つ「西獄」が所在している。南側に位置する右京二条二坊一・二町には左馬寮の厨町である「左馬町」、同八町には左兵衛府の厨町である「左兵衛町」が所在しており、本調査地は諸司厨町の一角に位置している。



図7 四行八門と調査地位置図 (1:2,500)

安土桃山時代の天正 19 年には、豊臣秀吉によって現在の円町より東側を囲うように御土居と御土居堀が造られている。同坊十三町の 1991 年の調査では、御土居の南肩が検出され、同十三町の 2002 年の調査では、御土居の土塁基底部が検出されている。<sup>(注3)</sup>  
<sup>(注4)</sup>

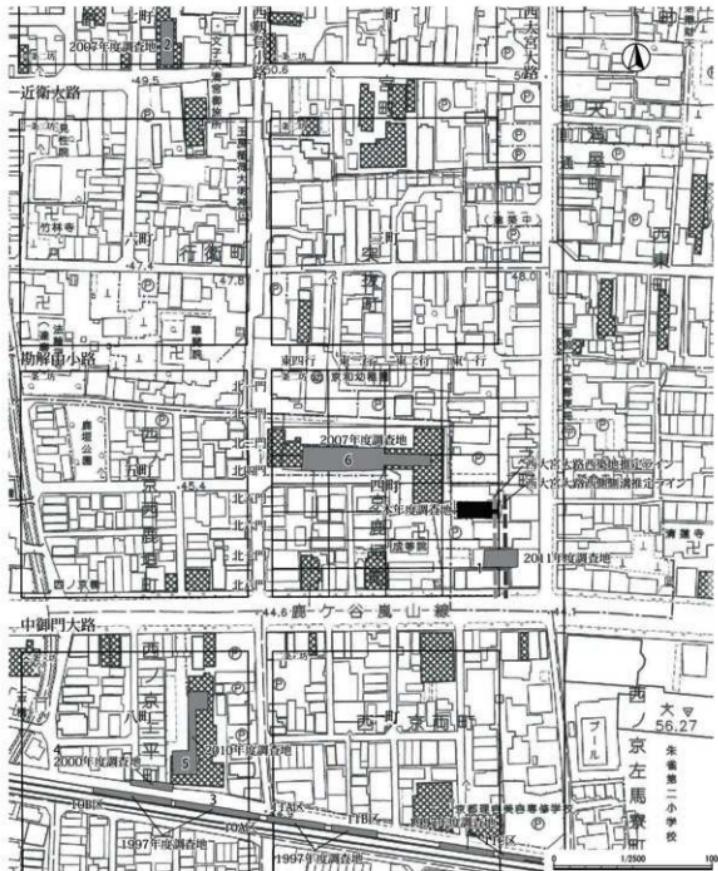


図 8 周辺調査位置図 (1:2,500)

## 第2節 周辺の調査

平安京の右京一条二坊四町内では、本調査地の北西側で2007年度に1件、南側において2011年度に1件、計2件の調査が行われている（図8・表1-1\_6）。

2007年に行われた調査では、江戸時代の土坑・溝、室町時代の溝、鎌倉時代の土坑・溝や、弥生土器を大量に含む平安時初期の溝、弥生時代後期の住居跡が検出されている。

2011年に行われた調査では、西大宮大路の西側側溝であるSD20が調査されている。このSD20は、出土遺物から近世初頭のSD20、鎌倉時代～室町時代のSD20A・B、平安時代のSD20Cの4時期にわたりその機能を果たしていたことが確認された。平安時代に造られ西大宮大路の西側側溝として機能していた溝は、大内裏が衰退して調査地周辺が荒れ地になった後も、使用目的は不明であるが平安時代の位置を踏襲して各時代に溝が掘られ、近世の前半には溝としての機能を失っていたことが確認されている。また、築地の痕跡は残っていなかったものの、西大宮大路の西側側溝の位置から、溝の西側に本来存在していたと考えられる築地の推定位置が図示されている。溝が北進する位置は、北側に位置する本調査区の東側を通ることが推定される。また、築地の推定位置は本調査区内の東側端部付近が想定される。

これらのことから本調査においても、近世から弥生時代にかけての遺構及び築地を含む西大宮大路関連遺構が検出されることが予想された（図8・表1-1\_6）。

表1 周辺調査地一覧

番号	所在地	調査概要	参考文献
1	上京区御前通下立下る下之町 414-2, 415-3, 420	西大宮大路の西側側溝を検出。平安時代以降も同位置を踏襲して溝が造られる。近世初頭に埋没し、その後が失われるまで計4期の時期があったことが確認される。	財團法人 京都市埋蔵文化財研究所「西大宮大路側溝調査報告書」右京一条二坊四町 2011年
2	上京区上ノ立先通御前西入二丁目 堀川町517番地	江戸時代の整地跡・石垣・土竈穴が検出された。また、平安時代後期の遺構を中心とした遺跡群を検出している。平安時代後期の遺構としては、幅広な建物跡・溝が検出され、検出した遺構から調査地東側に位置する近畿大路に面して小規模な建物が軒を連ねていた状況が考えられている。	財團法人 京都市埋蔵文化財研究所「平安京右京一条二坊七町跡」2007年
3	中京区東院南町他地内	調査区域の10区では、平安時代後期の流域・西務負小路の西側溝・園地遺構が検出され、11区では、平安時代の土坑。平安時代前期の溝・柱穴。平安時代後期の溝跡・西大宮大路の築地が検出されている。	財團法人 京都市埋蔵文化財研究所「左安界・朝日院跡、右京一条三・四坊、二条二坊」(平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要) 1999年
4	中京区西ノ京上平町100-9他地内	平安時代中期から鎌倉時代初期までの3期の時期に分かれる園池遺構が検出されている。	財團法人 京都市埋蔵文化財研究所「平安京右京二条二坊八町跡」(平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要) 2003年
5	中京区西ノ京上平町2, 53, 54	平安時代中期から平安時代後期にかけての3期の時期に分かれる園池遺構が検出している。また、建物基礎と見えらるる土坑が検出されている。報告書では、1999年度に検出された園池の本調査において検出した園池の検討がなされ、N期の時期に分かれられることが確認されている。	株式会社東樂建設設計コンサルタント「平安京右京二条二坊八町跡」・平安時代後期の調査 2011年
6	中京区西農田町54、農田町1-36	江戸時代の溝・土竈穴、室町時代の溝、鎌倉時代の土坑・溝や、宗生土器を多量に含む平安時代初期の溝と、弥生時代後期の住居跡が検出されている。	関西文化財調査会 平成19年4月24日付け「埋蔵文化財発掘調査終了届」(吉川 義彦) 「埋蔵文化財発掘調査終了届」(吉川 義彦)

〈註、引用参考文献〉

- 1) 辻純一「条坊制とその復原」 財團法人 古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』 角川書店 1994年
- 2) 山田邦和「右京全町の概要」 財團法人 古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』 角川書店 1994年
- 3) 昭和62年度「京都市埋蔵文化財調査概要」 財團法人 京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 4) 平成11年度「京都市埋蔵文化財調査概要」 財團法人 京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 5) 関西文化財調査会 平成19年4月24日付け「埋蔵文化財発掘調査終了届」(吉川 義彦)
- 6) 関西文化財調査会『西大宮大路発掘調査報告書』右京一条二坊四町 2011年

## 第3章 遺構

### 第1節 基本層序

基本層序は、調査区南北壁面、東西壁面、Tr1 西壁面、Tr2 北壁面の土層を 1～55 層の連番で付し、近・現代の盛土層と各遺構の堆積には枝番を付している（図 9・10）。調査では 50 層・51 層の黒褐色土上面まで重機掘削を行い、遺構検出作業を行っている。以下に各堆積土について記述する。

1-1 層灰黄色土～1-3 層暗褐色土は近・現代の盛土層で、2 層は搅乱の堆積である。3 層灰黃褐色土～10-3 層黒色土は、棧瓦や 18 世紀から近世末と考えられる陶磁器等を含むことから近世末以降の遺構の堆積である。5 層にぶい黄褐色土は SD1、9-1 層灰黃褐色土～9-2 層黒褐色土は SK9 の堆積、10-1 層黒褐色粘質土～10-3 層黒色土は、調査終了後に行った確認調査範囲の Tr2 において検出した SE4 の堆積で、いずれも近世以降の遺構である。

11 層灰黃褐色土と 12 層にぶい黄褐色土は、近世末以降の堆積である。

13-1 層黒褐色土～13-4 黒色土は SK13 の堆積、14-1 黄褐色土～14-8 層明黄褐色シルトは、当初、搅乱の堆積と考えていたが、SK13 に削平されていることから、近世末の遺構と考えられる。ただし調査区北東隅で検出し、堆積土が軟弱で崩落の危険性があったため、部分的にしか掘削できていない。堆積状況と掘削深度が深いことから、井戸の可能性が考えられるため、SE6 の遺構番号を付している。

15 層黒褐色土、16-1・16-2 層黒褐色土、18 層灰黃褐色土、20 層黒褐色土、22 層黒褐色土、24-1 層黒褐色土～24-3 層黒褐色土、27 層黒褐色土は、調査区壁面でのみ確認した近世の遺構の堆積である。17-1 層黒褐色土～17-3 層黒褐色土は SK8、19 層灰黃褐色土は SK1、21-1 層灰黃褐色土～21-5 層黒色土は SE3、23-1 層黒褐色土～23-3 明黄褐色シルトは SX2、25 層黒褐色土は P1、26-1 層黒褐色土～26-5 層明黄褐色シルトは SK11 の堆積である。遺物は、上層の搅乱等の影響により若干新しい遺物も混入するが、17 世紀中頃～から 18 世紀後半の遺物が含まれることから、近世の中頃から後半にかけての遺構であると考えられる。

28 層黒色土、29 層黒褐色土、31 層灰黃褐色土、32 層黒褐色土は近世の盛土層である。35 層明黄褐色シルトは当初、SK14 として調査を行っていたが、調査区壁面の観察により、下層において検出した SD2 と SK23 の埋め戻し後に落ち込んだ窪地部分に厚く堆積することを確認し、北西端部にある大型遺構の落込み部分を平坦にするために盛られた堆積であると判断した（図 9・10）。時期は、SD2 から 17 世紀中頃から 18 世紀前半の遺物が出土することから、近世中頃以降の整地土であると考えられる。

33-1 層オリーブ黒色土・33-2 層礫は SK30、34-1 層黒褐色土～34-5 層明黄褐色シルトは SK25、36-1 層灰黃褐色粘質土～36-7 層黒褐色土は、SD2 の堆積である。

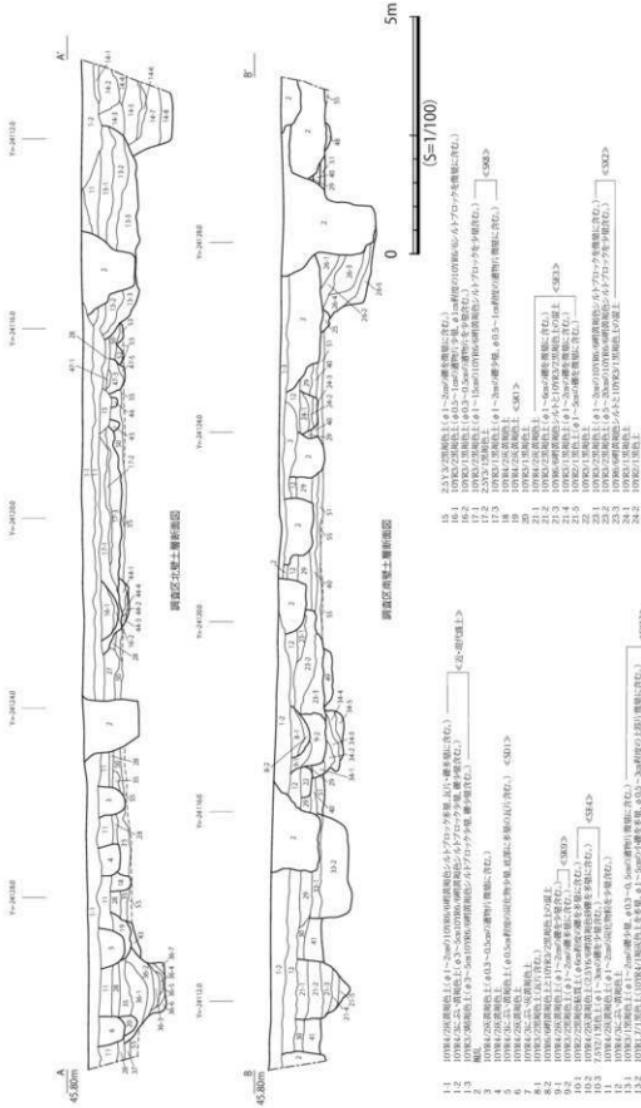
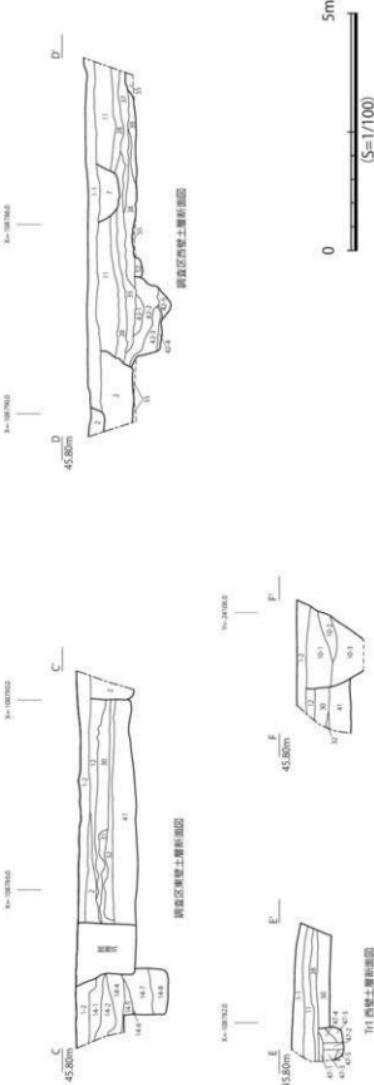


图9 北壁·南壁上层断面图

-9-



-10-

T1 西壁土層断面図	
25	10981.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
30	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
31	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
32	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
33.1	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
33.2	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34	10983.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34.1	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34.2	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34.3	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34.4	10984.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
34.5	10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
35	10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
36.1	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
36.2	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
36.3	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
36.4	10984.25(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
36.5	10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
37	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
38	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
39	10982.15(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
40	10982.15(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
41	10982.15(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
42.1	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
42.2	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
42.3	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
42.4	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
42.5	10983.10(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)

T2 北壁土層断面図	
43	10983.25(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
44.1	10982.71(10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分))
44.2	10982.71(10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分))
44.3	10982.71(10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分))
44.4	10982.71(10984.00(西壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分))
45	10982.25(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
46	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
47.1	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
47.2	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
47.3	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
47.4	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
47.5	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
48	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
49	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
50	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
51	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
52	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
53	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
54	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)
55	10982.10(北壁土上) 0.15~1.5m(地盤を被覆する部分)

図 10 東壁・西壁土層断面図、T1 西壁土層断面図、T2 北壁土層断面図

<CR>

37～40層の黒褐色を基調とする堆積土、41層灰黄褐色砂礫は、下層に堆積するSK23と、この堆積の上層に堆積するSD2の両遺構の出土遺物から、近世前半の盛土層である。

42-1層黒褐色土～42-5層明黄褐色シルトはSK23の堆積である。17世紀初頭から中頃の遺物が出土することから近世初頭の土取り穴である。

43層灰黄褐色土はSK19、44-1層明黄褐色シルト～44-4層明黄褐色シルトは建物2-P1、45・46層黒褐色土は北壁でのみ確認したピットの堆積である。47-1層黒褐色土～47-5層明黄褐色シルトは建物2-P7の堆積である。遺物は出土していないが、同面で検出した遺構と同様の平安時代後期以降の遺構の堆積である。

48層黒褐色土はP3、49層黄褐色シルト質砂と黒褐色土の堆積は、当初、SK28として調査を行っており、堆積状況から植栽痕の可能性も考えられたが、上層遺構に大きく削平され、検出状況からは判別が困難であったため根拠乱としている。

50・51層黒褐色土は、東西方向に横断する近世遺構のSD2に削平されることにより、その堆積の直接の繋がりを確認できていない。また、出土遺物は、縄目叩き痕のある平瓦の破片や土師器、縁釉陶器等の碎片が大半を占め、遺物の時期を判別できるものは僅かであったが、50層より出土した、土師器の皿（図28-126・127）と縁釉陶器の小椀（図28-128）が京III期新～京IV期新に属し、51層から出土する縁釉陶器等の碎片も同時期頃に属する遺物であると考えられることから、平安時代中期～平安時代後期の遺物包含層である。

52層黒褐色土はP53、53層黒褐色土はP43の堆積である。遺物が出土していないため、不明な点も多いが、50層の遺物包含層の下層より検出したことから、平安時代中期以前の遺構であると考えられる。55層明黄褐色シルトは地山の堆積である。

## 第2節 遺構

本調査では、調査区北側中央部と南側中央部において黒褐色土を基調とする50層、51層の平安時代中期以降の遺物包含層を検出しており、この50・51層の上面と55層明黄褐色シルトの地山直上において遺構検出作業を行っている。上記の包含層上面では、近世の遺構も多数検出されたが、50層上面では、ピットや土坑と共に建物1を検出し、51層上面では、京VII期中～京VII期新に属する遺物を含むSK20・21・27を検出している。55層明黄褐色シルトの地山上面では、ピットや土坑とともに建物2と建物3を検出している。ただし、建物2は50・51層の下層から検出したことにより、上記の包含層以前に遡る遺構であると考えていたが、調査終了時に行った確認調査範囲のTr1の西壁面において、約25cmの層厚が残存する50層の上面より建物2-P7が掘り込まれていることを確認しており、平安時代後期以降の建物跡であることが確認された。また、建物3やその他の遺構も、近世の遺構や搅乱により大きく削平されることにより、僅かな埋土しか残存しておらず、遺物も細片が少量出土しているのみで、遺構の時期を出土遺物から特

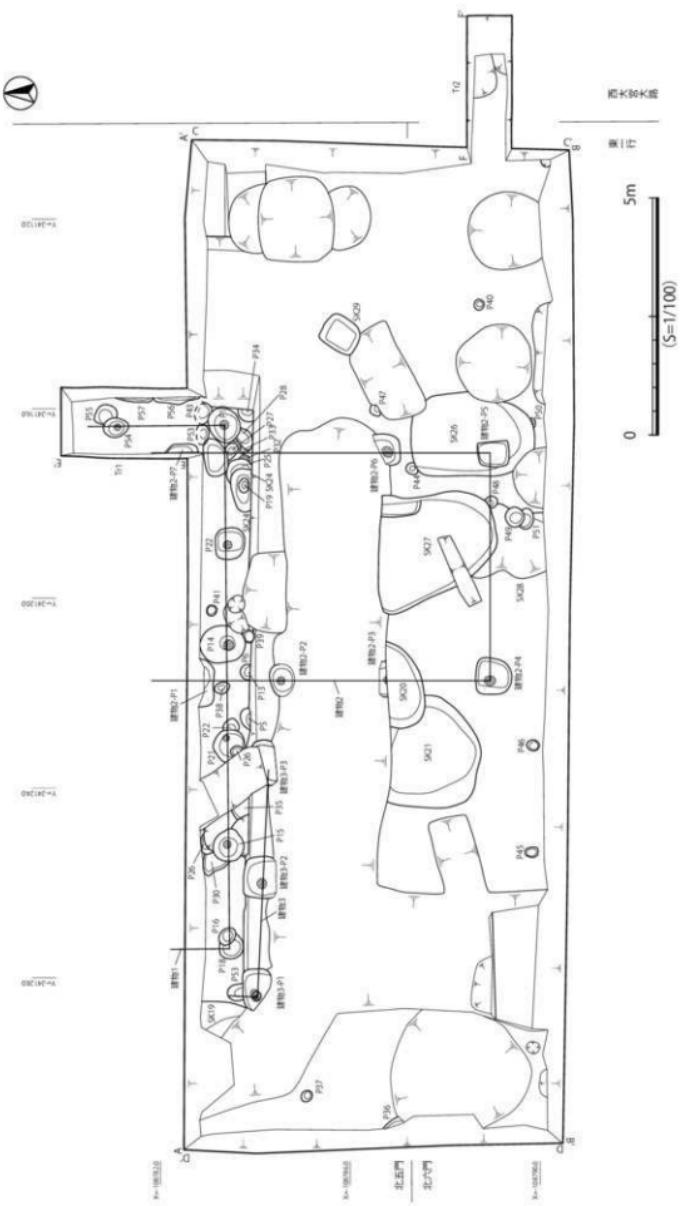


図11 2面遺構平面図

定するのは困難であった。ただし、各遺構の堆積土が 50 層上面で検出した遺構と類似する点や、近世遺物を含まないことから、近世以前の遺構であると判断した。本報告書では 50・51 層上面及び 55 層地山直上で検出した近世以前の遺構を 2 面目（図 11）、近世以降の遺構を 1 面目（図 17）として、報告する。

### （1）平安時代後期の遺構

50・51 層の平安時代中期以降の遺物包含層上面と、55 層の地山直上において検出した遺構である。出土遺物と遺構の堆積状況から平安時代後期の遺構と考えられる。ピットや土坑とともに、建物 1～3 を検出している。

#### 建物 1（図 11・12）

建物 1 は、調査区北壁直下の 50 層上面で検出した P11・14・15・18・21・22・54 の 7 基からなり、P54 は、調査終了時の確認調査範囲 Tr1 で検出した遺構である。東西方向 4 間、南北方向 1 間を検出している。また、建物 1 は、「四行八門」の北五門と北六門の境目の北五門側に位置している。

検出した規模は、東西検出長 11.8m、南北検出長 2.28m を測り、建物の方位は N6°-E である。柱間の寸法は、東西 1.88～2.48m と間隔は不揃いで、南北は 2.28m である。柱痕の直径は 13.5～21.7cm を測り、掘り方の規模は最大長 0.54～0.96m、最大幅 0.41～0.77m、深さ 0.2～0.37m を測る。平面形状は不正形な楕円形ないし円形で、断面形状は U 字状を呈する。P18 以外の柱穴には、根固めとして直径 6.7～16.9cm の礫と、長さ 7～27.8cm の瓦（図 28-129・130、図 29-131～133）が充填されている。

遺物は、P11 の 2 層より灰釉陶器（図 20-4）、P15 の 2 層より緑釉陶器（図 20-2）、P21 の 1 層からは緑釉陶器（図 20-3）、2 層より黒色土器が（図 20-1）出土している。出土遺物の時期は、京Ⅲ期新～京Ⅳ期古に属するが、50 層出土遺物（図 28-126・127）と時期差が見られないことから、建物を建てる際に包含層 50 層の遺物が混入した可能性が考えられる。そのため、建物 1 の時期は平安時代後期から鎌倉時代初頭頃と考えたい。

#### 建物 2（図 11・13）

建物 2 は、調査区中央部の地山直上で検出した建物である。P1～7 の 7 基からなり、P7 は調査終了時に確認調査範囲 Tr1 において検出した遺構である。P2～6 は上層の遺構に大きく削平され、本来 P6・7 の間にあると考えられる柱穴は、削平され確認できなかった。東西方向 1 間、南北方向 3 間を検出している。また、建物 2 は、「四行八門」の北五門と北六門の境目の中央部に位置している。

検出した規模は、東西検出長 4.8m、南北検出長 6.4m を測り、建物の方位は真北である。柱間の寸法は 2.32m で、柱痕の直径は 13.6～26.1cm を測り、掘り方の規模は最大長 0.65～1.16m、

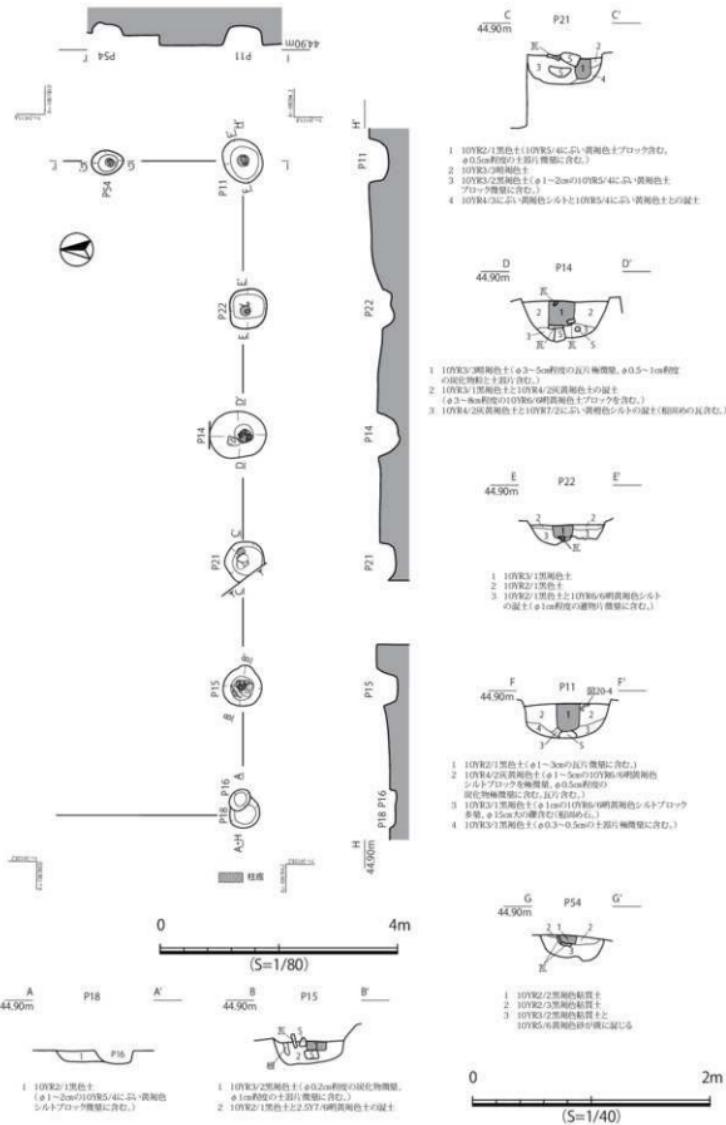


図 12 建物 1 平面・断面図

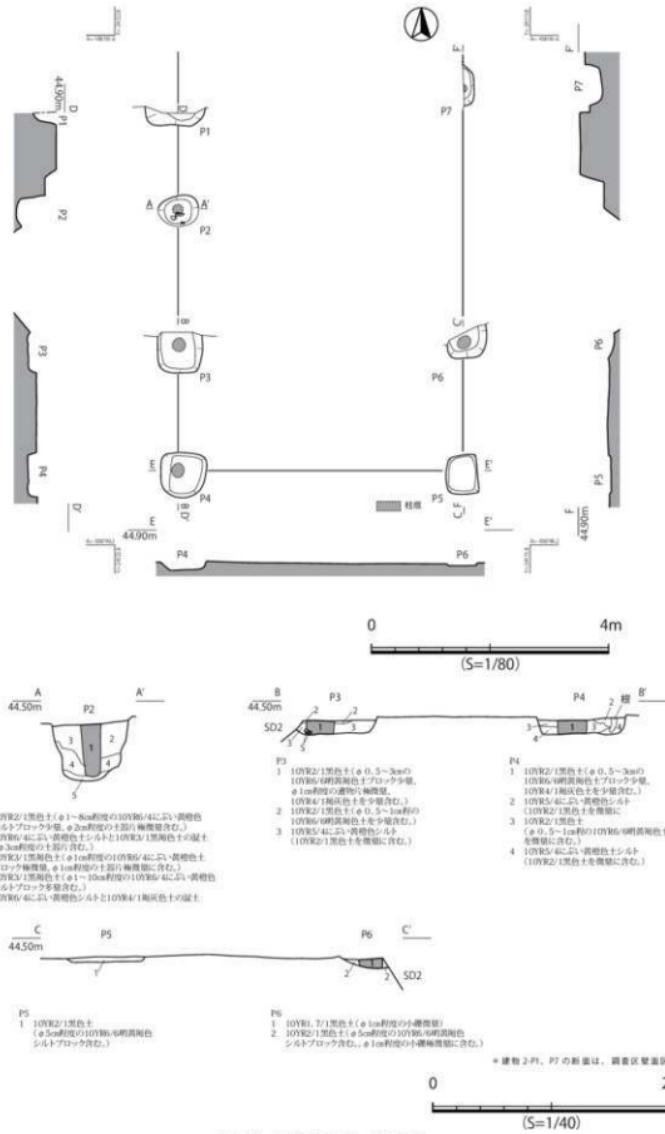


図 13 建物 2 平面・断面図

最大幅 0.48 ~ 0.72m、深さ 0.04 ~ 0.49m を測る。平面形状は楕円形ないし隅丸方形と考えられ、断面形状は箱状、U字状、皿状を呈する。なお、P2 の底面には根固めとして、長さ 14.5cm の瓦（図 30-134）が据えられている。

出土遺物は、土器等の細片しか出土しておらず、出土遺物から建物 2 の時期を特定することは困難であった。しかし、確認調査範囲 Tr1 の西壁面において、P7 が 50 層上面より掘り込まれていることが確認できた。上記状況と遺構の形状、堆積土から平安時代後期に属する遺構であると考えられる。

### 建物 3（図 11・14）

建物 3 は、調査区北西側の地山直上で検出した建物跡である。P1 ~ 3 の 3 基からなり、東西方向 2 間分を検出している。そのほとんどが、近世以降の遺構と現代の搅乱に削平されている。また、南北方向の柱穴は検出されていないが、調査区南側において確認できないことから、北側の調査区外に展開するものと考えられる。この建物 3 は、「四行八門」の北五門と北六門の境目の北五門側に位置している。

検出した規模は、東西検出長 5.16m を測り、建物の方位は N-87°-E である。柱間の寸法は 2.39m で、柱痕の直径は 22.6 ~ 24.5cm を測り、掘り方の規模は最大長 0.84 ~ 1.0m、最大幅 0.46 ~ 0.65m、深さ 0.12 ~ 0.15m を測る。平面形状は残存状況から、隅丸方形が考えられ、断面形状は箱状を呈する。

出土遺物は、土器等の細片しか出土しておらず、建物 2 と同様に、出土遺物から時期を特定するのは困難であった。遺構の形状や堆積土から平安時代後期に属すると考えられる。

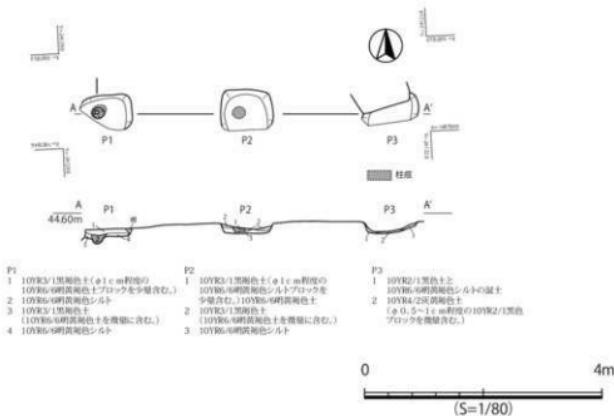


図 14 建物 3 平面・断面図

## (2) 鎌倉時代の遺構

鎌倉時代の遺構はSK20・21・27を検出しており、遺物の出土状況等から廃棄土坑であると考えられる。その他にも鎌倉時代の遺物を含む遺構は何基か検出しているが、調査区壁面において確実に上層から掘り込まれていることが確認できる遺構や、近世の比較的新しい遺物が共伴して出土することから、本調査において鎌倉時代に属する遺構は、この土坑3基のみである。なお、検出した廃棄土坑は、「四行八門」の北五門、北六門に位置しており、一連の土坑の北側が、近世遺構のSD2に大きく削平され、鎌倉時代に属する区画境の柱列等は検出されていないが、「四行八門」の区画境を意識した場所に廃棄物を破棄した可能性も考えられる。

### SK20（図11・15）

SK20は、調査区中央部南西側付近で検出し、西側に隣接するSK21を切っている。検出した規模は、長軸1.84m、短軸0.75m、深さ0.14mを測る。平面形状は楕円形で、断面形状は皿状を呈する。埋土は、黒褐色土の單一層である。遺物は土師器、瓦器（図20-5～8）が出土しており、遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。上層部が近世以降に大きく削平され、遺構の残存は僅かであるが、遺物の出土状況と、近接する同じ時期の遺物が出土しているSK21・27が廃棄土坑であることから、同一時期頃の廃棄土坑の可能性が考えられる。

### SK21（図11・15）

SK21は、調査区中央部南西側付近で検出し、東側はSK20に、西側は搅乱に削平されている。検出した規模は、長軸2.45m、短軸2.14m、深さ0.34mを測る。平面形状は楕円形で、断面形状は皿状を呈する。埋土は、1・2層ともに黒褐色土を基調とする堆積で、1層には土師器片を多量に含んでいる。遺物は土師器、須恵器、瓦器（図21-9～19）が出土しており、遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。

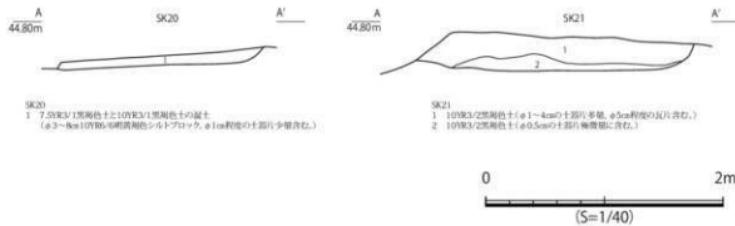


図15 SK20・21 断面図

### SK27 (図 11・16)

SK27 は、調査区中央部南東付近で検出し、西側は SX2 に、北側は SD2 に削平されている。検出した規模は、長軸 2.52m、短軸 2.1m、深さ 0.31m を測る。平面形状は橢円形を呈すると考えられ、断面形状は皿状を呈する。埋土は、5 層に分層でき、黒褐色土を基調としている。また、1 層には土師器の細片を多く含み、2 層においては、土師器を主とした多量の遺物（図 22-20～64、図 23-65～76、図 24-77・78）が出土した（図 16）。3～5 層には、ほとんど遺物が含まれていない。出土した遺物の時期は、すべて京Ⅶ期中～京Ⅶ期新に属する。

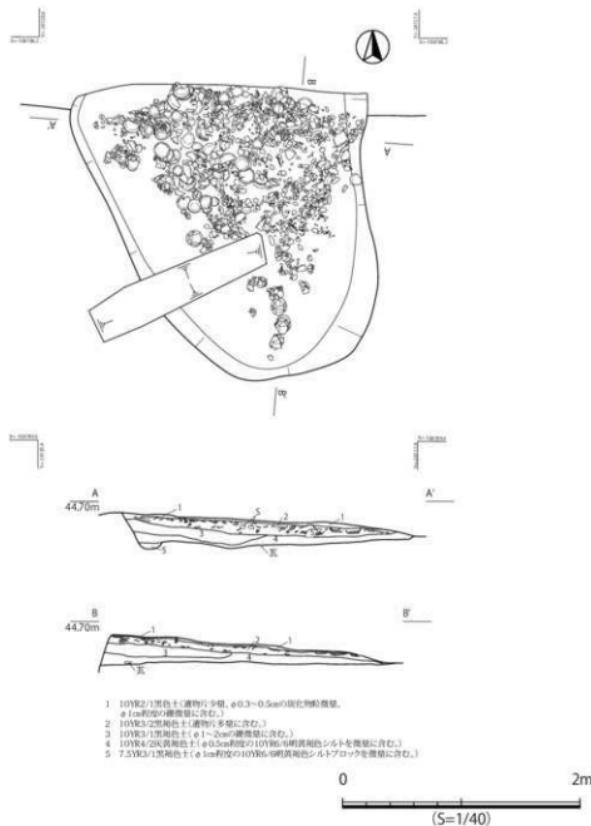


図 16 SK27 遺物出土状況・断面図

### (3) 近世の遺構

近世の遺構は、区画溝と考えられるSD2、井戸跡のSE2・3、土取り穴と考えられるSK11・23・25・30、廃棄土坑と考えられるSK6・7、大型な土坑であるが性格不明なSK16・17等を検出している。またピットも数基検出し、P17のように17世紀中頃の遺物（図27-125）を含み、近世の中頃と考えられるピットも検出しているが、建物跡や柱列と考えられる柱穴は検出されていない。なお、遺構を検出した際、SK14とSX3の番号を付した遺構は、調査区壁面においてSK14は北壁と西壁の35層の整地層、SX3は南壁と東壁の41層の盛土の範囲であることを確認したため、1面遺構平面図（図17）には破線でその堆積範囲を示している。

近世の遺構は、調査地周辺における近世以降の土地利用を考える上で重要であると考えられるSD2、SE2・3、SK11・23・25についてのみ記述する。

#### SD2（図17・18）

調査区中央付近で検出し、検出状況とSD2のA断面1～5層はSK11の堆積土であることから、SK11に大きく削平されていることが確認された。SD2は、東側の収束部から西側に直進し、西側で北側へ屈曲するL字状を呈する区画溝と考えられる溝跡で、「四行八門」の北五門と北六門の境目の北五門側に位置している。

主軸は東西方向がN90°Eを示し、総長は13.36mを測る。深さは1.0～1.48mである。断面形状は逆台形状を呈するが、上部はやや外反する。堆積土は、A・B断面、調査区北壁の堆積状況は異なるものの、全ての断面の最下層部には崩落土が認められる。特にB断面には崩落土が厚く堆積することが確認でき、崩落土である9・10層からはSK27と同時期の土師器の皿が多数出土し、SK27の遺物が混入していることが確認された。なお、北壁36-3層灰黄褐色粘質土、A断面7層とB断面7層にぶい黄橙色粘質土は溝が機能していたころの水性堆積土である。B断面最下層の13層灰黄褐色粘質土は溝が造られた初期の水性堆積土である。SD2が造られた時期は、13層より京XII期新～京XIII期中に属する陶磁器が出土することから、17世紀中頃であると考えられ、埋め戻しの堆積である3層からは、京XII中～京XIII期新以降に属する遺物が出土することから、18世紀の前半頃に使用されなくなり、埋められたと考えられる

#### SE2（図17・19）

調査においては、7基の井戸を検出しているが、大半の井戸が近代以降の井戸であり、近世に造られたと考えられる井戸は、SE2とSE3のみである。

SE2は、調査区南東側の南壁面直下で検出した素掘りの井戸である。東側は、SK10・16・22に大きく削平されるものの、上端径1.74～1.89m、下端径0.56～0.64m、深さ1.52mを測る。平面形は楕円形で、断面形はU字状を呈するが、上部には段を持ち外側に外反する。堆積土は6層からなり、黒褐色土～黒色土を基調とする堆積で、すべて埋め戻しによる堆積である。遺物は細片ばかりで、平安時代の縁釉陶器や近世の瓦の細片が混在しているが、時期を特定できる遺物

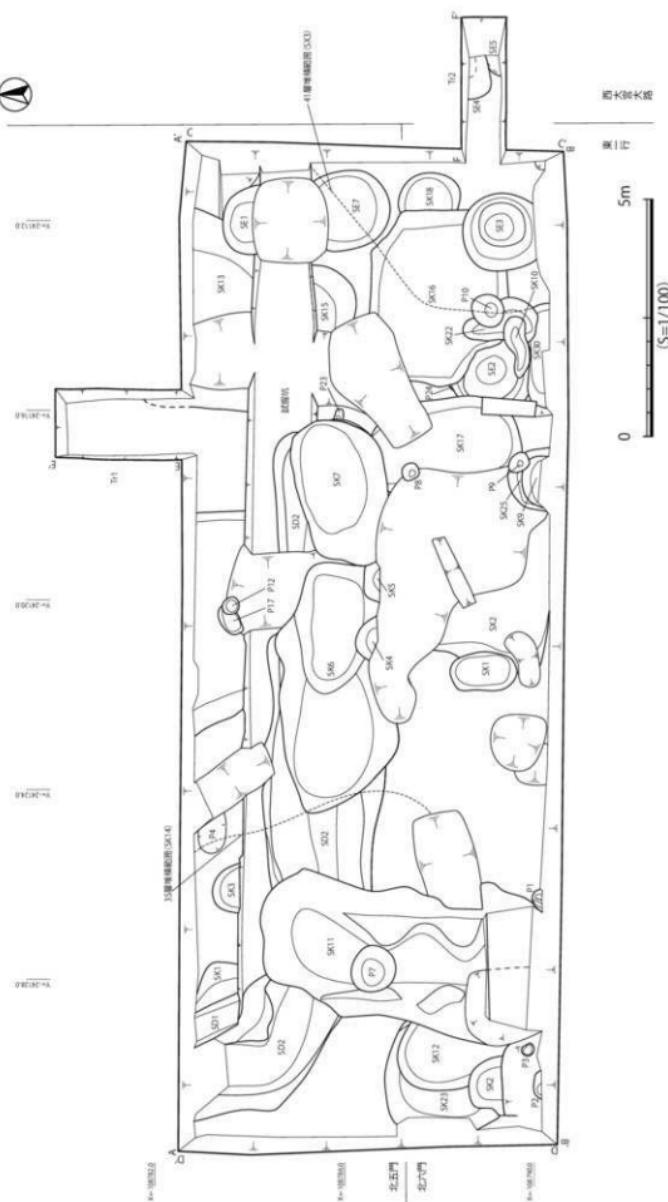
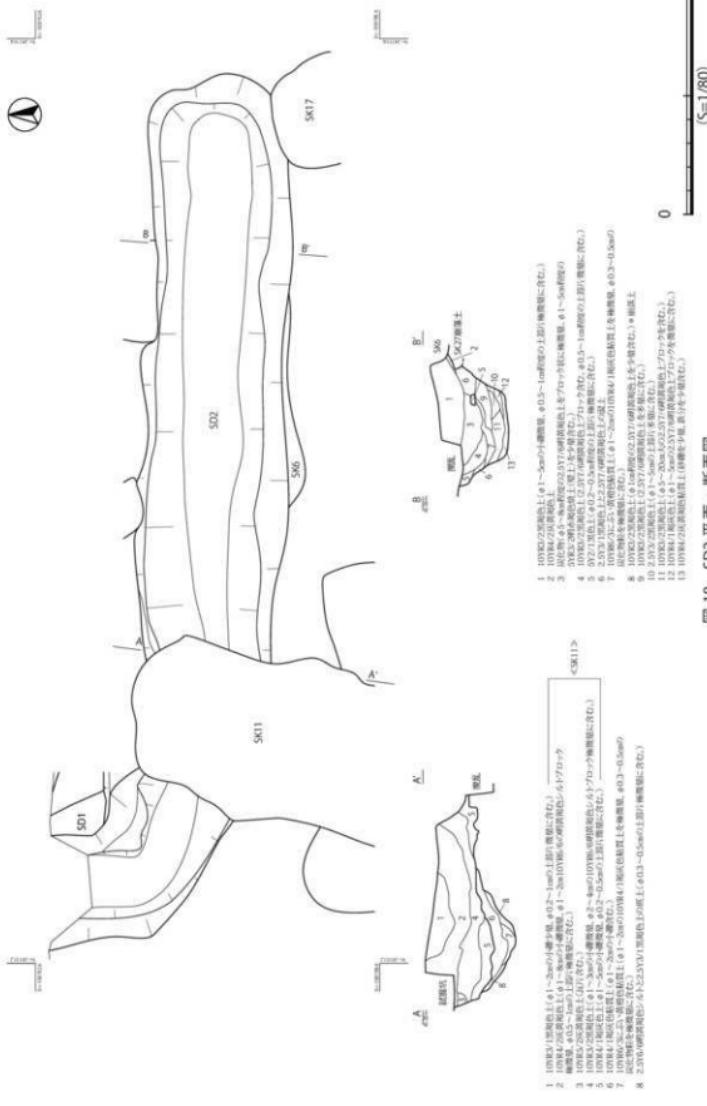


圖 17-1 面遺構平面圖



は出土していない。近世の土取り穴と考えられるSK30をSE2が削平していることから、18世紀以降に造られた井戸と考えられる。

#### SE3（図17・19）

SE3は、調査区南東側のSE2の東側で検出した素掘りの井戸である。上端径1.65～1.73m、下端径0.59～0.61m、深さ1.52mを測る。平面形は梢円形で、断面形は筒状を呈するが、上部は段を持ち外反する。堆積土は7層からなり、褐灰色土～黒色土を基調とする堆積で、すべて埋め戻しによる堆積である。遺物は、SE2と同様に細片ばかりで、時期を特定できる遺物は出土していないが、近世の丸瓦の細片が出土していることや、近世の盛土である30層上面から掘り込まれていることが確認できることから、18世紀以降に造られた井戸である。

#### SK11（図17）

SK11は、調査区西側で検出した大型の土取り穴である。北側はSD2を削平し、南側は調査区外へ伸びる。検出した規模は、長軸5.9m、短軸2.75m、深さ1.2mを測る。平面形状は溝状で、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は5層からなり、黒褐色土～明黄褐色シルトを基調とする堆積で、すべて埋め戻しによる堆積である。遺物は、京XII期新～京XIV期古に属する遺物が出土しており、SD2との切り合い関係から、18世紀後半以降に埋め戻された遺構と考えられる。

#### SK23（図17・19）

SK23は、調査区西側の西壁直下で検出した土取り穴である。東側はSK11に削平され、西側は調査区外へ伸びる。検出した規模は、長軸2.97m、短軸2.33m、深さ0.88mを測る。平面形状は梢円形で、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は5層からなり、灰黄褐色土～ぶい黄橙色土を基調とし、3層には炭化物が堆積する。すべて埋め戻しによる堆積である。

遺物は、京XII期古～京XIII期新に属する遺物が出土し、17世紀前半～17世紀中頃に埋め戻された遺構である。

#### SK25（図17）

SK25は、調査区南東側の南壁直下で検出した土取り穴である。上層はP9に大きく削平され、南側は調査区外へ伸びる。検出した規模は、長軸0.85m、短軸0.85m、深さ0.65mを測る。平面形状は梢円形を呈すると考えられ、断面形状は歪な逆台形状を呈する。堆積土は5層からなり、黒褐色土～明黄褐色シルトを基調とする。

遺物は、京XIII期古以降の遺物が出土しており、18世紀以降に埋め戻された遺構である。

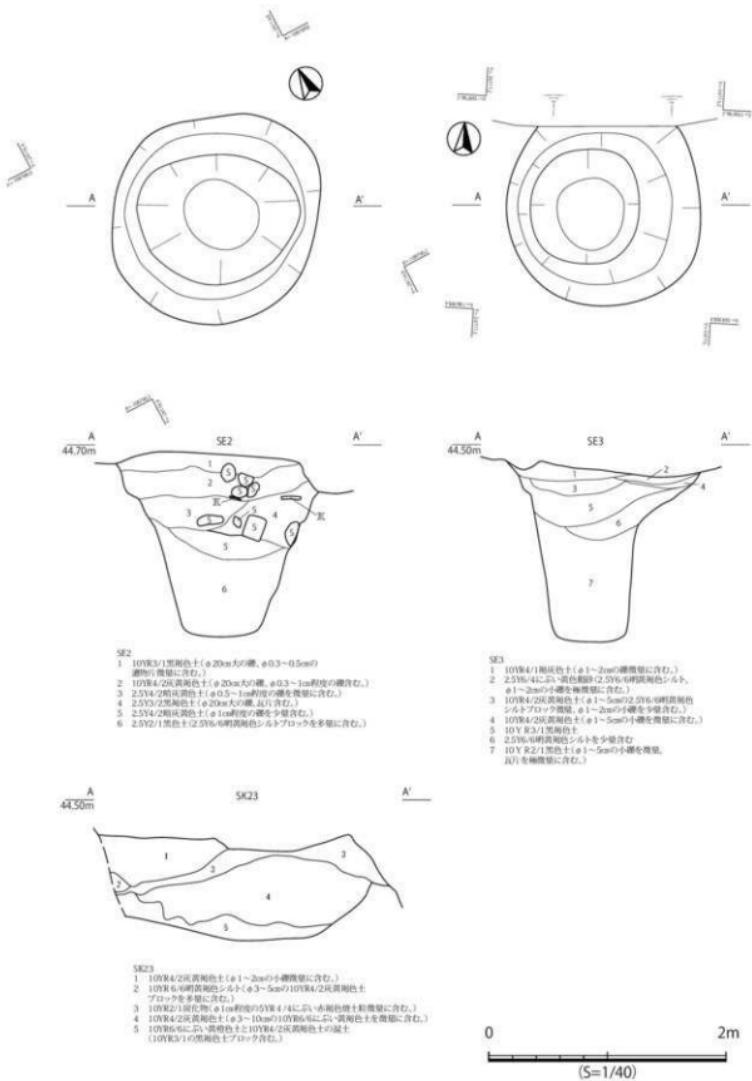


図 19 SE2・3 平面・断面図、SK23 断面図

## 第4章 遺物

### 第1節 遺物の概要

今回出土した遺物はコンテナバットで33箱（表2）、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、陶器、磁器、鉄製品、瓦等が出土している。

近世の遺物が大半を占めているが、そのうちSK27より出土した土師器、瓦器はコンテナバット約8箱分出土しており、出土遺物の約1/4を占めている。

表2 出土遺物概要表

時代	内 容	P21 箱数	Aシカ点数	Bシカ 箱数	Cシカ 箱数
弥生時代					
古墳時代					
平安時代 瓦	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、 瓦	3	土師器2点、須恵器1点、黒色土器1点、緑釉陶器4点、 灰釉陶器1点、瓦9点		2
鎌倉時代	土師器、瓦器	13	土師器70点、瓦器16点		11
室町時代					
江戸時代	土師器、陶器、軟質施釉陶器、磁器、土製品、 鉄製品、石製品、瓦	17	土師器7点、陶器13点、軟質施釉1点、磁器12点		15
合計		33箱	計137点(5箱)		28箱

### 第2節 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物

#### 建物1出土遺物（図20-1～4 図版12・20）

建物1からは、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器が出土している。

黒色土器は、P21の2層から出土しており、黒色土器椀のA類（1）である。内面にはヘラミガキを施す。

緑釉陶器は、P15より皿（2）、P21より椀（3）が出土している。P15の2層より出土の皿（2）は、底部のみの残存で内外面に施釉される。P21の1層より出土の椀（3）も底部のみの残存で内外面に施釉される。高台は、外側に段を持つ輪高台で、内面にも浅い段を有する。

灰釉陶器は、P11の2層より長頸壺（4）と考えられる破片が出土している。肩部分のみの残存で、外面には施釉され、内面は無釉である。

黒色土器（1）、緑釉陶器（2・3）はともに京III期新～京IV期古に属すると考えられるが、灰釉陶器は肩部のみの残存で、時期は不明である。建物1に属する一連の柱の掘り方より出土していることから、同時期に属するものと考えられる。

#### SK20出土遺物（図20-5～8 図版12・20）

1層からは、土師器、瓦器が出土している。

土師器の皿（5）は、皿Acで、胎土は白色系を呈する。口径7.2cm、高さ1.05cmで、底部は平

坦で、口縁部は内側に傾斜する。6は、皿Nの小皿で、口径は8.2cm、高さ1.4cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がる。7は、皿Nの大皿で、口径は13.2cm、高さ1.6cmである。器形は、平坦な底から斜め上方に立ち上がる。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部はナデである。

瓦器は、椀(8)が出土している。口径12.2cm、高さ4.1cmで、口縁部ヨコナデ、内面はヘラミガキを施し、内面の口縁部に凹線状の段がある。椀の底部中央は欠損しているが、暗文と考えられるものが確認できる。

出土遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。

#### SK21 出土遺物 (図21-9～19 図版12・20)

1層からは土師器皿、瓦器、須恵器が出土している。

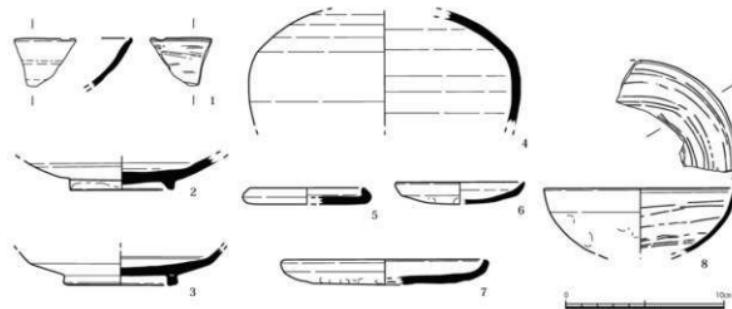
土師器皿は皿が出土している。9～11は皿Nの小皿で、口径7.0～9.0cm、高さ0.9～1.35cmである。器形は、平坦な底から斜め上方に立ち上がる。12～16は皿Nの大皿で、口径12.4～14.4cm、高さ1.75～2.45cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がるもの(12・13)、平坦な底から斜め上方に立ち上がるもの(14・15)、底から斜め上方に立ち上がり口縁端部が外反するもの(16)がある。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部はナデである。

瓦器は、椀、盤がある。

椀(17)は、口径14.8cm、高さ4.15cmである。口縁部ヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。底部が欠損しているため、暗文と高台形状は不明である。

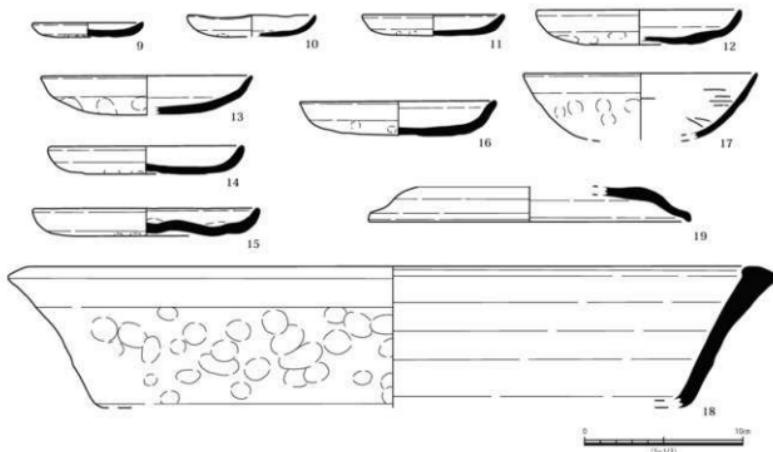
盤(18)は、口径48.6cm、高さ8.9cmである。器形は、体部は斜め上方に立ち上がり、口縁部端部は肥厚する。底部は欠損しているが、三足の脚が付くと考えられる。調整は内面と口縁部はナデで、外面体部はユビオサエの調整を施す。

須恵器は蓋(19)で、口径20.4cm、高さ2.2cmである。天井部が欠損しているため、つまみの有無は不明である。他の出土遺物の時期と異なり、京I期新～京II期古に属するが、参考遺物として抽出した。他の出土遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。



建物1-P21 2層(1)、建物1-P21 1層(3)、建物1-P15 2層(2)、建物1-P11 2層(4)、  
SK20 1層(5～8)

図20 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物1



SK21 1層 (9 ~ 19)

図21 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物2

SK27 出土遺物 (図 22-20 ~ 64、図 23-65 ~ 76、図 24-77・78、図版 12 ~ 16・20・21)

2層からは、土師器、瓦器が出土している。

土師器は皿が出土している。20は皿Acで、胎土は白色系を呈する。口径6.0cm、高さ0.7cm、底部は平坦で、口縁部は内側に傾斜する。この皿AcはSK27から2点しか出土していない。21~43は、皿Nの小皿で、口径は8.0~9.2cm、高さ1.1~1.9cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がるもの(21~34)、平坦な底から斜め上方に立ち上がるもの(35~42)、底から斜め上方に立ち上がり口縁端部が外反するもの(43)。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部にはナデを施す。44~65は皿Nの大皿で、口径11.4~14.2cm、高さ1.8~2.8cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がるもの(44~59)、平坦な底から斜め上方に立ち上がるもの(60~62)、底から内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反するもの(63・64)、浅いためより皿状を呈し、底部から斜め上方に立ち上がり、口縁部が外反するもの(65)がある。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部はナデである。なお、61の口縁部には煤が付着し、34・55・65の胎土は白色系を呈する。

66は皿Sで、口径は11.5cm、高さ3.0cmで深い椀状を呈し、口縁部のナデは一段ナデで、胎土は白色系を呈する。

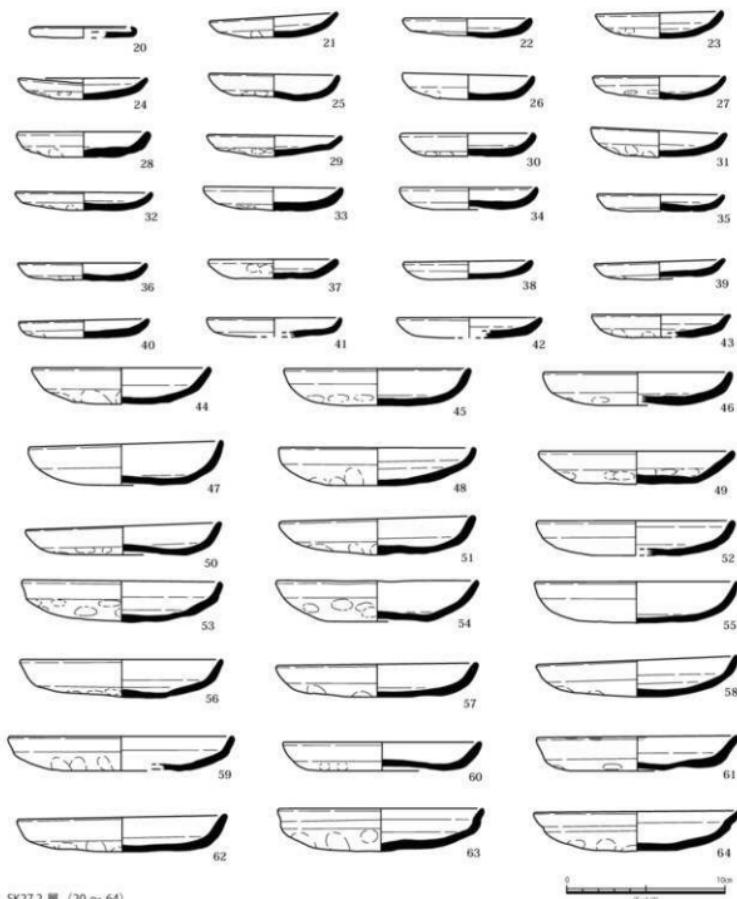
瓦器は皿、椀、盤が出土している。皿(67)は、口径14.6cm、高さ2.8cmである。口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキを施し、暗文は、底部が欠損しているため確認できない。

椀(68~76)は2種類ある。68~71は口径12.0~14.2cm、高さ3.7~4.1cmで、口縁部ヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。全ての椀の底部中央は欠損しているが、71には暗文と考えられるものが確認できる。68は確認できないが、他の椀の底部には低い貼り付け高台が付く。

72～76は口径11.2～13.2cm、高さ3.1～4.1cmで、口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。器形は、内湾する体部を持ち、高台はつかない。75・76は、口縁部が内側に屈曲する。暗文は、72が格子文、73・74がジゲザゲ文、76が斜格子文、75は摩耗のため不明である。

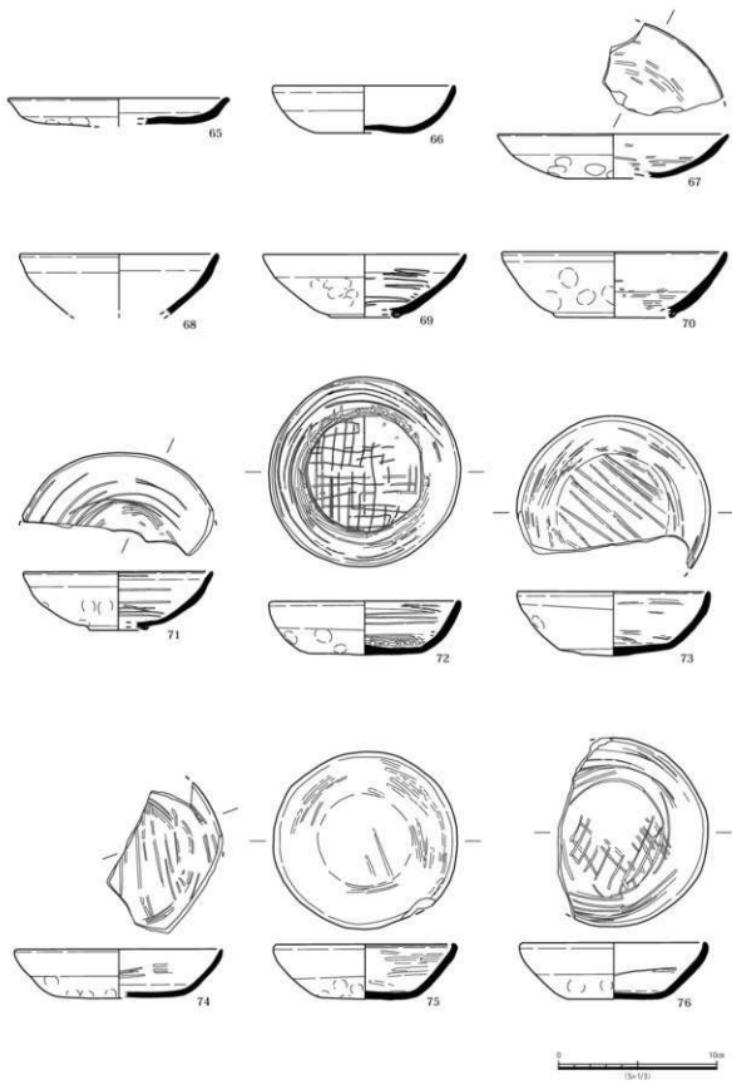
盤(77・78)は、口径40.5～42.0cm、高さ6.6～7.15cmである。器形は、体部は斜め上方に立ち上がり、口縁部端部は肥厚する。底部は何れも欠損しているが、三足の脚が付くと考えられる。内面と口縁部はナデで、外面体部はユビオサエの調整を施す。

出土遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。



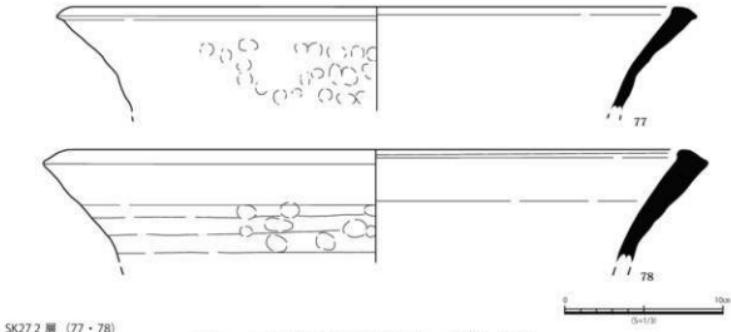
SK27.2 層 (20～64)

図22 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物3



SK27.2層 (65～76)

図23 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物4



SK27.2 層 (77・78)

図 24 平安時代後期から鎌倉時代の遺構出土遺物 5

### 第3節 近世の遺構出土遺物

SD2 出土遺物 (図 25-79 ~ 96、図 26-97 ~ 115 図版 16 ~ 18・21)

SD2 は、A・B 断面と調査区北壁面にて土層の観察を行っているが、A・B 断面の 7 層にぶい黄褐色橙色粘質土（図 18）及び北壁面の 36-3 層灰黄褐色粘質土（図 10）は、溝が機能していた最終段階の時期の堆積であり、それより上層は埋め戻しの堆積土、下層は溝肩部分の崩落土である。また、B 断面では、この崩落土の下に 13 層灰黄褐色粘質土の堆積を確認し、溝の初期段階の様相を示している。溝内の堆積土は、その殆どが B 断面にて観察した土層の堆積であり、多くの近世の遺物を含んでいた。そのため、本報告書では B 断面の堆積土より遺物の抽出を行っている。下記に記す層番号は B 断面図（図 18）に対応する。また SD2 は、深掘りの確認作業を行っており、その際に一括で取り上げた遺物を参考遺物として抽出している。

3 層からは、土師器、縁釉陶器、陶器、磁器が出土している。

土師器（79 ~ 82）は、皿 Nr. 皿 S と型式不明の皿 1 点が出土している。

皿 Nr. (79・80) は、口径 5.2 ~ 5.6cm、高さ 1.2cm で、器形は底から斜め上方に立ち上がり、口縁部はヨコナデである。

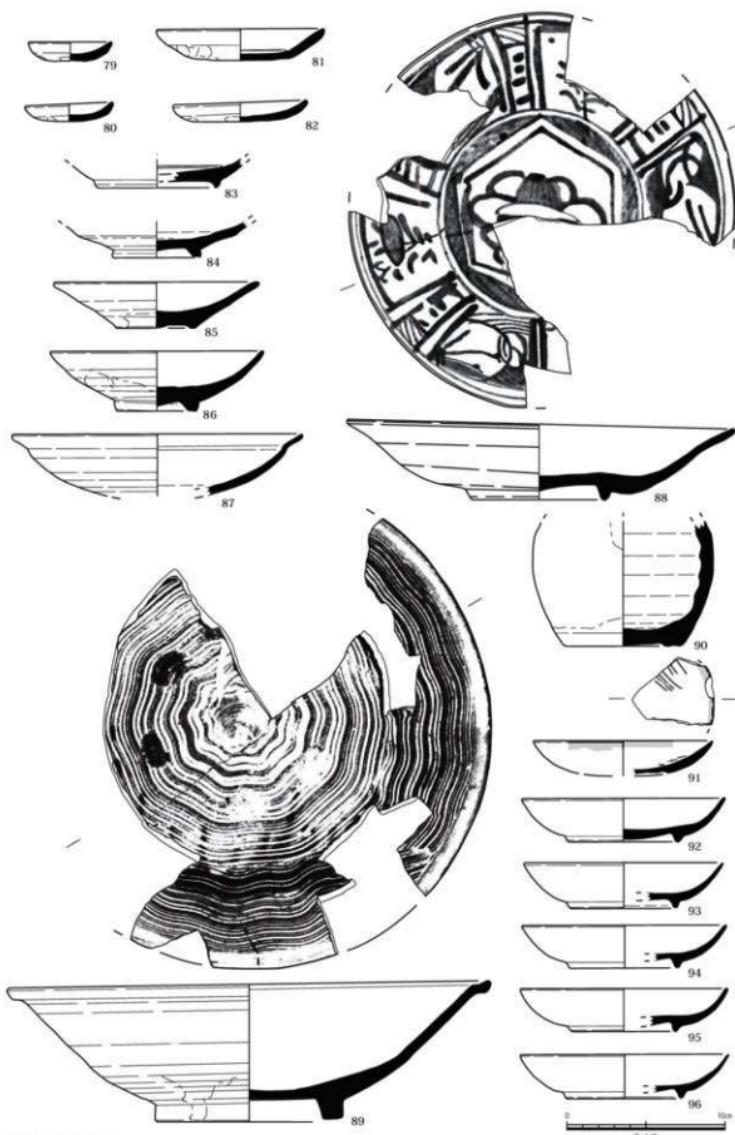
皿 S (81) は、口形 10.6cm、高さ 1.95cm で、器形は底から斜め上方に立ち上がり、口縁部はヨコナデ調整を施し、内面には凹状圈線を持っている。

82 は、底から斜め上方に立ち上がり、口縁部はヨコナデ、内外面の底部はユビオサエのちナデの調整が施される。型式は不明であるが、79 ~ 81 の土師器皿と同一時期の遺物であると考えられる。

縁釉陶器 (83) は、皿が出土している。

83 は、底部のみの残存で、内外面に施釉され、見込みには凹線が 2 条めぐる。高台は削り出し高台である。時期は、京Ⅲ期新～京Ⅳ期古に属すると考えられる。

陶磁器は、皿、壺が出土している。



SD2 3 層 (79 ~ 96)

図 25 近世の遺構出土遺物 1

84～87は、肥前系の陶器の皿で、外面に灰釉、内面は銅緑釉が施釉される84・87と、鉄釉が施釉される86があり、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。85は内外面に灰釉が施釉された皿である。

88は、産地不明で、陶器の芙蓉手の皿である。内外面ともに長石釉が施釉され、全体に貫入が入る。内面には呉須により草花文が描かれる。また、SK6より出土のものと一部接合が認められるが、混入物であると考えられる。

89は、肥前系の陶器の大鉢である。内面には刷毛目、外面には灰釉が施釉される。見込みには、胎土目が5ヵ所残存する。

90は、瀬戸・美濃産の陶器の壺である。外面に鉄釉が施される。

91は、京都産と考えられる軟質施釉陶器の灯明皿である。内外面ともに施釉され、口縁部には油煙が付着する。内面には櫛描き状の文様が施されている。遺物の時期は京XIII期新以降に属すると考えられる。

92～96は、肥前系の白磁の皿で、口径12.6～13.2cm、高さ2.6cm～2.9cmで、若干のばらつきはあるが、同一の規格で作られたとを考えられる。

97は、肥前系の白磁の輪花皿である。内面には草花文が型押しされている。

98は、肥前系の磁器の染付皿である。見込みと内面口縁部に五重圈線が染付される。

SD2の3層からは、18世紀代と考えられる遺物も数点出土している。図示した90の壺と91の灯明皿は18世紀代の遺物で、SD2が上層遺構に大きく削平されていることから混入した可能性も考えられるものの、同時に3層の堆積時期も示している可能性も残るため、3層は京XIII期古～京XIV期古までの堆積と考えるに留めておく。

4層からは、土師器(99)が出土している。

99は、焰烙鍋で、口縁部を外側に折り曲げ、口縁端部を上方につまみ上げている。出土遺物の時期は京XII期中に属する。

9層はSD2肩部分の崩落土で、SK27の遺物を含んでいる。堆積土からは土師器が出土している。土師器(100～103)は、皿Nが出土している。100・101は皿Nの小皿で、口径8.6～9.0cm、高さ1.45～1.5cmである。器形は、平坦な底から斜め上方に立ち上がる。102・103は皿Nの大皿で、口径11.2～13.6cm、高さ2.3cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がるるもの(102)、底から斜め上方に立ち上がり口縁端部が外反するもの(103)がある。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部はナデである。

出土遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。

10層も9層と同じくSD2肩部分の崩落土で、SK27の遺物を含んでいる。土師器が出土している。

土師器(104～111)は、皿Nが出土している。104～106は皿Nの小皿で、口径7.7～9.0cm、高さ1.2～1.45cmである。器形は、底から斜め上方に立ち上がるもの(104)、平坦な底から斜め上方に立ち上がるもの(105・106)がある。107～111は皿Nの大皿で、口径12.2～13.6cm、

高さ 1.85 ~ 2.4cm である。器形は、底から斜め上方に立ち上がるるもの (107・108)、平坦な底から斜め上方に立ち上がるもの (109)、底から斜め上方に立ち上がり口縁端部が外反するもの (110・111) がある。何れも口縁部のヨコナデは一段ナデで、体部はナデである。

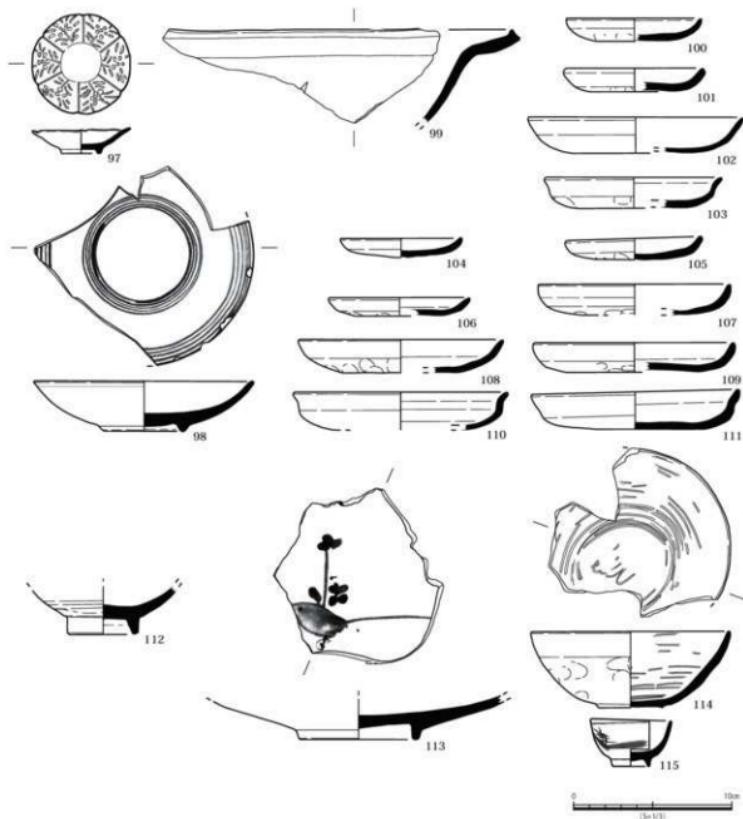
出土遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。

13 層からは、陶磁器が出土している。

112 は、肥前系の陶器の椀で、内面には灰釉、外面には銅緑釉が施釉される。

113 は、肥前系の磁器の皿である。見込みに草花文・鳥文が染付される。

出土遺物の時期は京XII期新～京XIII期中に属する。



SD2 3 層 (97)、SD2 4 層 (98)、SD2 9 層 (100 ~ 103)、SD2 10 層 (104 ~ 111)、  
SD2 13 層 (112・113)、SD2 一括 (114・115)

図 26 近世の遺構出土遺物 2

一括遺物には瓦器、磁器がある。

114は、瓦器の椀である。口径 12.6cm、高さ 4.8cmで、口縁部ヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。暗文はらせん状で、底部には低い貼り付け高台が付く。

遺物の時期は京VII期中～京VII期新に属する。

115は、肥前系の磁器の小杯で、囲線及び簡略化された山水文らしき文様が染付されている。遺物の時期は京XIII期古～京XIII期中に属する。

#### SK11 出土遺物（図 27-116～118 図版 18・19）

陶磁器が出土している。

116は、肥前系の陶器の皿で、内外面に灰釉が施釉され、見込みには蛇の目釉剥ぎが施される。

117は、肥前系の磁器の鉢である。内面には唐草文・草花文・太湖石・囲線が染付され、外面には囲線と不明な文様が染付されている。

118は、肥前系の磁器の水滴である。上面には草花文が型押しされ、呉須により色付けされている。側面全体には幾何学文が染付されている。

116の陶器の皿は京XII期新に属し、117・118の鉢と水滴は、京XIV期古以降に属すると考えられる。

#### SK23 出土遺物（図 27-119～123 図版 18・19）

2層より陶磁器が出土している。また、120の志野産の筒向付と122の丹波産の擂鉢は、3層出土遺物との接合が確認されている。

119は、肥前系の陶器の皿で、内外面ともに灰釉が施釉される。また、見込みには砂がまばらに付着している。

120・121は、志野産の陶器の筒向付である。内外面ともに長石釉が施釉され、貫入が入る。120の外面には、縱縞・横線、梅文・萬文が鉄釉で描かれる。121にもみられるが、鉄絵部分が一部しか残存していないため、何が描かれていたかは不明である。

122は、丹波産の陶器の擂鉢である。内面には擂目があり、櫛目は1条7本である。

123は、肥前系の磁器の椀で、外面には蝶文・草花文・囲線が染付される。

遺物の時期はXII期古～京XII期新に属する。

#### SK25 出土遺物（図 27-124 図版 19）

土師器が出土している。

124は、土師器の鉢と考えられる。口縁部はヨコナデされる。

遺物の時期は京XIII古以降と考えられる。

#### P17 出土遺物（図 27-125 図版 21）

土師器が出土している。

125は、焙烙鍋で、口縁部を外側に折り曲げ、口縁端部を上方につまみ上げている。また、内外面と断面において、輪積痕が確認できることから、口縁部は体部成形後接合されたと考えられる。遺物の時期は京XII期中に属する。



SK11 (116 ~ 118)、SK23.2層 (119 ~ 123)、SK25 (124)、P17 (125)  
図 27 近世の遺構出土遺物 3

## 第4節 包含層の出土遺物

本調査では、近世の造成及び遺構によって近世以前の包含層が削平されることにより、調査区中央部で検出した 50・51 層しか検出できていない。この包含層もそのほとんどが、層厚が約 8 ~ 20cm と薄いものであった。そのため、遺物の出土量は非常に少なく、出土した遺物も縄目叩き痕がみられる平瓦の破片や、土師器、縁軸陶器の細片であった。調査終了時に北側の確認調査範囲 Tr1 の西壁面で、削平されずに良好に残存する層厚 25cm の 50 層を確認したが、表面上では遺物は確認できなかった。調査終了時に調査区壁面より遺物の採取作業を行ったが、時期が判別できる遺物を採取することはできなかった。実測図は 50 層より出土した遺物で、反転復元及び時期の判別の可能な遺物を実測している。

### 包含層出土遺物（図 28-126 ~ 128、図版 22）

50 層からは土師器、縁軸陶器が出土している。

土師器（126・127）は、皿が出土している。口径は 11.4 ~ 11.6cm、高さ 1.1 ~ 1.3cm で、口縁部は外反し、端部は上方に收める。口縁部と内面はヨコナデ、外面体部はユビオサエ後ナデの調整を施す。

縁軸陶器（128）は、小椀で底部のみ残存し、内外面に施釉される。施釉される縁軸は薄く若干斑状である。高台は平底の削り出し高台で、底面には回転糸切り痕が残り、無釉である。

出土遺物の時期は京Ⅲ期新～京Ⅳ期新に属すると考えられる。

## 第5節 遺構より出土した瓦

本調査では、各遺構より瓦が出土しており、平安時代後期から鎌倉時代と考えられる建物 1、建物 2 では、柱穴の根固めとして丸瓦・平瓦が使用されている。また、近世の遺構からは、近世の陶磁器と共に作して、平安時代の軒丸瓦・軒平瓦が出土している。そのため、参考遺物として抽出し、図示している。

### 建物 1 出土の瓦（図 28-129・130、図 29-131 ~ 133、図版 22）

建物 1 のすべての柱穴には、礫と共に瓦が根固めとして使用されていたが、摩滅や劣化により非常に状態が悪く、その中でも、比較的状態の良いものを各柱穴より抽出した。

P14 の 2 層からは、丸瓦が出土している。129 の凸面はナデ調整され、凹面には布目痕とコピキ A の痕跡が見られる。

P15 の 2 層からは、平瓦が出土している。130 の凸面には縄目叩き痕、凹面には布目痕が残る。また、両面にはコピキ A の痕跡が見られる。131 は、凹凸面ともに摩耗が激しく、調整は凹面に布目痕らしき痕跡と、中央部付近に工具痕らしき痕跡が残るのみである。

P21 の 2 層からは、平瓦が出土している。132 の凸面には縄目叩き痕、凹面には布目痕とコ

ビキ A の痕跡が見られる。

P54 の 2 層からは、平瓦が出土している。断面において 3 つの平瓦の破片が、柱跡の南側面と底部に据えられおり、3 片とも接合して 1 つの平瓦になる。このことから、状況に応じて瓦を碎いて柱を据えていることが確認できている。133 の凸面には、縄目叩き痕、凹面には布目痕が残る。

#### 建物 2 出土の瓦（図 30-134、図版 22）

建物 2 においては、P2 以外には根固めを検出できていない。唯一検出した P1 の瓦も、建物 1 の柱穴のように、礫と一緒に充填された状況ではなく、柱部分の底面に据えられるだけであった。

P1 の 5 层からは、平瓦が出土している。134 は、凹凸面ともに摩耗が激しいが、凸面には、ナデと考えられる痕跡があり、凹面には布目痕と摸骨痕が残る。

#### その他遺構より出土の瓦（図 30-135～137、図版 22）

近世の遺構、SK17 からは軒平瓦、SD2 からは、軒丸瓦、鎌倉時代の遺構からは、軒平瓦が出土している。

135 は、近世の遺構 SK17 の 2 層より出土の唐草文軒平瓦で、外区には珠文を配し、界線を持つ。瓦当部のみの残存である。瓦当はナデで調整される。時期は平安時代である。

136 は、鎌倉時代の遺構 SK21 の 1 層より出土の唐草文軒平瓦で、外区には珠文を配し、界線を持つ。全体に摩耗が激しいが、凹面はナデ調整、凸面には縄目叩き痕が残る。時期は平安時代後期である。

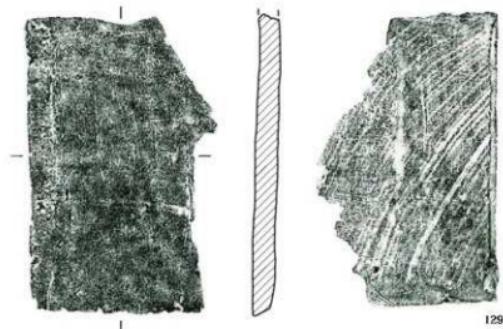
137 は、近世の遺構 SD2 の 3 層より出土の単弁十六葉蓮華文軒丸瓦である。外区には圓線が巡り、珠文を配する。瓦当周辺と凸面はナデ調整、凹面はユビオサエとナデ調整である。時期は、平安時代前期である。

#### 〈引用参考文献〉

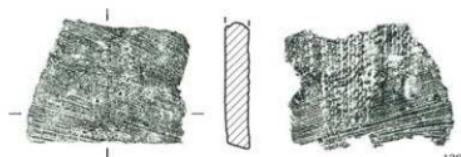
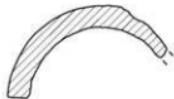
- 財團法人 京都市埋蔵文化財研究所 『平安京左京北辺四坊』・第 1 分冊（公家町形成前）  
京都市埋蔵文化財研究所調査報告書 22 号 2004 年  
財團法人 京都市埋蔵文化財研究所 『平安京左京北辺四坊』・第 2 分冊（公家町）  
財團法人 京都市埋蔵文化財研究所 『平安京左京四条三坊十二町跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告書 2007 年  
京都市埋蔵文化財研究所調査報告書 22 号 2004 年  
財團法人 濱戸市文化復興財團 『江戸時代のやきもの - 生産と流通 -』記念講演会・シンポジウム資料 2006 年  
小森俊貴 『京から出土する土器の編年的研究』(有)京都編集工房 2005 年  
九州近世陶磁学会 『九州陶磁の編年』・九州近世陶磁学会 10 周年記念 2000 年  
古代土器研究会 第 3 回シンポジウム『古代の土器研究』-律令的土器様式の西東 3- 古代土器研究会編 1994 年  
古代土器研究会 第 7 回シンポジウム『古代の土器研究』-平安時代の縁輪陶器- 古代土器研究会編 2003 年



0  
10mm  
(5×1/2)



129

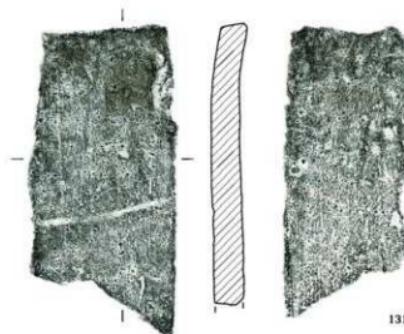


130

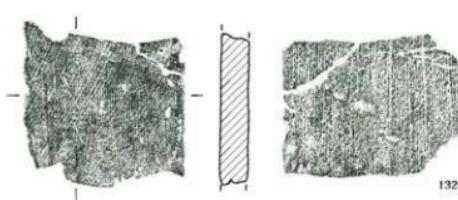


0  
10mm  
(5×1/2)

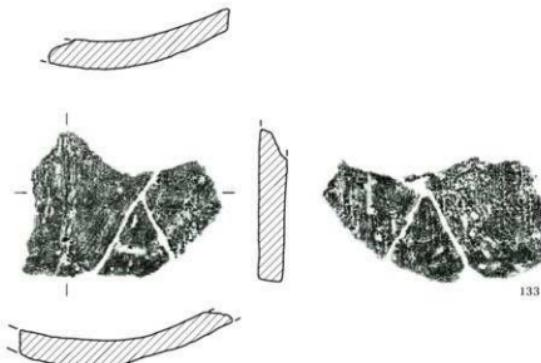
包含層 50 層 (126 ~ 128)、建物 1-P14 2 層 (129)、建物 1-P15 2 層 (130)  
図 28 包含層の出土遺物、遺構より出土した瓦 1



131



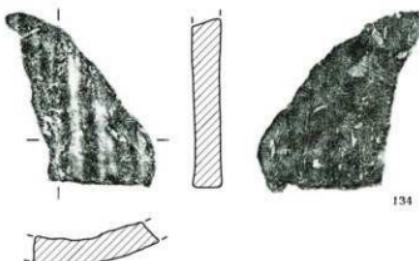
132



133



建物 1-P15 2 層 (131)、建物 1-P21 2 層 (132)、建物 1-P4 2 層 (133)  
図 29 遺構より出土した瓦 2



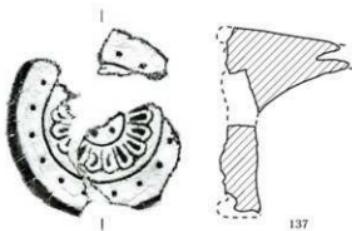
134



135



136



137

0 10mm  
(0-10)

建物 2-P1 5 層 (134)、SK17 2 層 (135)、SK20 1 層 (136)、SD23 層 (137)  
図 30 遺構より出土した瓦 3

## 第5章　まとめ

本調査では、近世以降の造成や大型遺構により、近世以前の包含層や遺構は大きく削平されていたが、平安時代から近世における遺構を検出している。

平安時代は、50層、51層の平安時代中期以降の包含層を調査地中央部で検出し、その上面において、平安時代後期の建物1・2と、同時期頃と考えられる建物3を55層の地山直上で検出している。これらの建物跡の範囲は重なり合っており、居住者が変わったことにより新たに建てられたのか、建て直しによるものなのかは不明であるが、確認調査範囲のTr1の結果等により、「四行八門」の北五門と北六門を境目とした北五門側を中心として建物が建てられていたことが確認された。

鎌倉時代になると、同時代の建物跡等は検出されていないが、調査地中央付近にはSK20・21や、大量の土師器が検出されたSK27といった京VII期中～京VII期新の遺物を含む廃棄土坑が検出され、鎌倉時代の中頃も調査地内は居住域として使用されていたことが窺われる。

近世の前半頃には、SK23のような大型の土取り穴が調査地内に出現し、一時、居住域として使用されていない時期があったようである。17世紀の中頃になると、調査地西側と東側には盛土がされ、またその上面にはSD2の大型の区画溝が造られることにより、大掛かりな造成が行われたようである。このSD2に関連するであろう建物跡等の遺構は検出されなかったが、SD2は「四行八門」の北五門と北六門の境目付近、東側は西大宮大路築地堀推定位置付近で収束するように造られ、近世においても平安時代からの土地区画が踏襲されていることが確認された。18世紀前半以降になるとSD2は埋め戻され、再び調査区南東側には土取り穴のSK25や、調査区西側で検出したSK11のような大型の土取り穴が調査地内に出現はじめ、再び居住域ではなくなるようである。しかし、このころから調査地東側にはSE2・3といったような素掘りの井戸が造られるようになり、同付近において近・現代に至るまで何度も掘り直しが行われている。このことは、明治22年に「大日本帝国陸地測量部」によって作成された地図からも読み取れ、調査地周辺は、通りに面しては建物が建ち並ぶものの、裏手側は居住域として使用されておらず、丁度、井戸が検出された付近が家の裏手に当たると考えられる。

本調査では、周辺の調査成果から弥生時代の遺構や、調査地内の東側で西大宮大路関連遺構の築地や内堀が検出されることが想定されていたが、近世以降の造成や遺構により削平され、確認調査範囲のTr1・2においても検出されなかった。しかし、平安時代中期以降の包含層や平安時代後期の建物跡、鎌倉時代の廃棄土坑、近世の区画溝等を検出し、平安時代から近世にかけての土地利用の変化と、居住域として使用される場合は平安時代からの土地区画が踏襲されているていることが確認された。

表3 遺物観察表1

※単位は、( )は復元値

図 番号	遺物 番号	遺物 名	基盤 材質	器 種	器 形	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 さ (cm)	底径・ 高さ径 (cm)	形成方法の特徴・文様等	色 調	備考 (時期・地點等)
20	1	遺物 I- P21	1層	黑色土器	楕	-	(3.0)	-	外面：口縁部黒色 内面：ヘラガチ	内：N2/ 外：N2/ 7.5YR6/6 相	京葉期新	
20	2	遺物 I- P15	2層	縦輪陶器	皿	-	(2.15)	6.6	外面：縦輪 内面：縦輪 削出し台面 底込みハラミガキ 浅い凹	内：7.5Y7/2 外：7.5Y7/2 7.5Y6/2 灰オリーブ	近江房 京葉期新	京葉期古
20	3	遺物 I- P21	1層	縦輪陶器	楕	-	(2.3)	7.2	外面：縦輪 内面：縦輪 底込みハラミガキ 凹輪底の凹あり	内：7.5Y7/1 7.5Y7/3 外：10YR6/1 7.5Y7/2 灰白 黄 灰	近江房 京葉期新 京葉期古	
20	4	遺物 I- P11	2層	灰陶陶器	長頸壺	-	(7.2)	-	外面：灰陶 内面：無施	内：5YR1/ 5YR2/ 2.5YR2 灰	京葉期新	京葉期古
20	5	SK20	1層	土師器	皿	(7.2)	1.05	(7.2)	外面：口縁部～底部ナゲ 内面：口縁部～底部ナゲ	内：10YR8/3 外：10YR8/3 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
20	6	SK20	1層	土師器	小皿	(8.2)	1.4	(3.8)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR8/3 7.5YR8/6 外：7.5YR8/6 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
20	7	SK20	1層	土師器	大皿	(13.2)	1.6	8.2	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR7/4 外：10YR7/3 にぶい相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
20	8	SK20	1層	瓦器	楕	(12.2)	(4.1)	-	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：ヘラガチ 口縁部コナゲ	内：2.5Y5/1 外：2.5Y5/1 黄灰 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	9	SK21	1層	土師器	小皿	(7.0)	0.9	(4.0)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR8/4 外：7.5YR8/6 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	10	SK21	1層	土師器	小皿	(8.1)	(1.35)	(4.0)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：2.5Y7/1 外：10YR7/3 にぶい相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	11	SK21	1層	土師器	小皿	9.0	1.35	6.0	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：10YR7/3 外：2.5Y7/3 にぶい相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	12	SK21	1層	土師器	大皿	13.0	2.2	-	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：10YR8/3 5YR6/2 外：10YR7/3 にぶい相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	13	SK21	1層	土師器	大皿	(13.4)	(2.45)	-	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4 にぶい相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	14	SK21	1層	土師器	大皿	(12.4)	1.75	(7.4)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR8/3 10YR8/2 外：7.5YR8/3 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	15	SK21	1層	土師器	大皿	(14.4)	1.75	(10.1)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 7.5YR7/4 2.5YS5/1 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	16	SK21	1層	土師器	大皿	12.4	2.2	-	内面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ナゲ	内：7.5YR8/3 外：7.5YR7/3 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	17	SK21	1層	瓦器	楕	(14.8)	(4.15)	-	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：ヘラガチ 口縁部コナゲ	内：5Y5/1 外：5Y5/1 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	18	SK21	1層	瓦器	楕	(48.6)	(8.9)	-	外面：口縁部ナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ	内：N5/ 外：N5/ 灰	京葉期中 ～	京葉期新
21	19	SK21	1層	須磨器	蓋	(20.4)	(2.2)	-	外面：ナデ 天井部ラケヅリ 内面：ナデ	内：N6/ 外：N6/ 灰	京葉期新 京葉期古	
22	20	SK27	2層	土師器	皿	(6.0)	(0.7)	(6.2)	外面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部コナゲ 体部：底部ユビオサエのちナデ	内：10YR8/3 外：10YR8/3 浅黄相 灰	京葉期中 ～	京葉期新

表3 遺物観察表2

図 番号	遺物 番号	遺構 基本番	層位	器種	器 形	口 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	底径 + 高台径 (cm)	形成技法の特徴・文様等	色 調	備考 (同系・他系)	
22	21	SK27	2 級	土師器	小皿	8.1	1.6	6.9	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR6/2 外：10YR7/3 NS/灰	灰黄褐 にぶい黄 にぶい灰	京VE期中～ 京VE期新
22	22	SK27	2 級	土師器	小皿	8.1	1.25	6.8	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：10YR7/4 7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	23	SK27	2 級	土師器	小皿	8.1	1.7	4.5	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR8/4 外：7.5YR8/2 10YR8/2	浅黄褐 浅黄褐 灰白	京VE期中～ 京VE期新
22	24	SK27	2 級	土師器	小皿	8.2	1.35	3.8	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR8/4 10YR8/3 外：7.5YR8/4	浅黄褐 浅黄褐 浅黄褐	京VE期中～ 京VE期新
22	25	SK27	2 級	土師器	小皿	8.3	1.7	7.5	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	26	SK27	2 級	土師器	小皿	8.3	1.7	4.0	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	27	SK27	2 級	土師器	小皿	8.5	1.5	6.7	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4 断：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	28	SK27	2 級	土師器	小皿 (8.5)	1.6	(4.0)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR8/3 外：7.5YR8/3	浅黄褐 浅黄褐	京VE期中～ 京VE期新
22	29	SK27	2 級	土師器	小皿	8.6	1.5	1.2	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	30	SK27	2 級	土師器	小皿 (8.6) (1.45) (5.4)	-	-	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	31	SK27	2 級	土師器	小皿	8.6	1.9	4.0	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR7/3 外：10YR7/3 断：10YR7/3	にぶい粉 にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	32	SK27	2 級	土師器	小皿	8.7	1.15	4.6	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/6 外：7.5YR6/6	粉 粉	京VE期中～ 京VE期新
22	33	SK27	2 級	土師器	小皿	8.8	1.5	4.2	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	34	SK27	2 級	土師器	小皿 (8.8) 1.4	(4.3)	-	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR8/2 外：10YR8/3	灰白相 浅黄褐	京VE期中～ 京VE期新
22	35	SK27	2 級	土師器	小皿	8.0	(1.15) (5.8)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	36	SK27	2 級	土師器	小皿	8.1	(1.1) (6.2)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	37	SK27	2 級	土師器	小皿	(8.2)	0.2	(5.2)	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/6	粉 粉	京VE期中～ 京VE期新
22	38	SK27	2 級	土師器	小皿	8.2	1.2	3.9	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4 10YR7/3	にぶい粉 にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新
22	39	SK27	2 級	土師器	小皿	8.2	1.1	-	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4 7.5YR7/4	にぶい粉 にぶい粉 にぶい粉	京VE期中～ 京VE期新

表3 遺物観察表3

図 番号	遺物 番号	遺物 名	基盤 番号	置位	器 種	器 形	口 径 (cm)	往 径 (mm)	底径 高 (mm)	底径・ 高径 (mm)	形成法 の特徴・文様等	色 調	備考 (時期・発見状況)	
22	40	SK27	2層	土師器	小皿	(8.2)	1.3	6.3			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：7.5YR7/4 外：10YR7/3	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	41	SK27	2層	土師器	小皿	(8.6)	(1.2)	7.4			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：7.5YR6/0 外：7.5YR6/6	柄 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	42	SK27	2層	土師器	小皿	(9.2)	(1.3)	7.0			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR7/3 外：10YR7/3	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	43	SK27	2層	土師器	小皿	(8.7)	(1.45)	(3.8)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	44	SK27	2層	土師器	大皿	(11.4)	2.3	(5.9)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：7.5YR8/3 外：7.5YR8/3	浅黄柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	45	SK27	2層	土師器	大皿	(11.7)	2.35	(6.0)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR8/3 外：7.5YR7/4	浅黄柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	46	SK27	2層	土師器	大皿	(12.0)	(2.1)	(5.2)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR8/3 外：10YR8/3	浅黄柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	47	SK27	2層	土師器	大皿	12.3	2.8	7.4			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR8/3 外：10YR8/3	浅黄柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	48	SK27	2層	土師器	大皿	(12.4)	2.4	-			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：7.5YR8/4 外：7.5YR8/3	浅黄柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	49	SK27	2層	土師器	大皿	(12.4)	(2.1)	(7.6)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	50	SK27	2層	土師器	大皿	12.4	2.05	7.4			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	51	SK27	2層	土師器	大皿	12.45	2.5	10.7			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/6 外：7.5YR6/6 2.3YR3/3	柄 柄 浅柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	52	SK27	2層	土師器	大皿	(12.6)	(2.2)	(5.4)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4 7.5YR8/4	に赤い 柄 に赤い 柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	53	SK27	2層	土師器	大皿	12.7	2.7	9.2			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコナデ	内：7.5YR6/6 外：7.5YR6/6	柄 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	54	SK27	2層	土師器	大皿	(12.8)	(2.6)	(6.4)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	55	SK27	2層	土師器	大皿	(12.8)	(2.6)	(8.0)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：10YR8/2 7.5YR8/3 外：10YR8/3	灰白 浅黄柄 浅黄柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	56	SK27	2層	土師器	大皿	12.8	(2.45)	(10.2)			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	に赤い 柄 に赤い 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	57	SK27	2層	土師器	大皿	12.8	2.2	9.5			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/4 10YR8/2 外：7.5YR7/4 10YR8/2	に赤い 柄 灰白	京韓朝中 ～ 京韓朝新
22	58	SK27	2層	土師器	大皿	12.8	2.65	8.6			外面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部：底部ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/6 外：7.5YR7/6	柄 柄	京韓朝中 ～ 京韓朝新

表3 遺物観察表4

図 番号	遺物 番号	遺構 基本番	層位	器種	器 形	口 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	底径+ 高さ(合計) (cm)	形成技法の特徴・文様等	色調	備考 (同系・実地分類)
22	59	SK27	2 番	土師器	大皿	(14.2)	(2.2)	(7.4)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：ヘマミガナデ 体輪・底面ナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にない にない	京VII期中 ～ 京VII期新
22	60	SK27	2 番	土師器	大皿	12.5	1.8	8.0	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエのちナデ 内面：ヘマミガナデ 体輪・底面ヨコサエ	内：7.5YR7/6 外：7.5YR7/6	穠 穠	京VII期中 ～ 京VII期新
22	61	SK27	2 番	土師器	大皿	12.8	2.15	6.0	外面：口縁部ヨコナデ 保付蓋 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：ヘマミガナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/4 10YR8/3 外：7.5YR7/4 10YR8/3	にない 浅黄褐 にない 浅黄褐	京VII期中 ～ 京VII期新
22	62	SK27	2 番	土師器	大皿	13.3	2.4	9.5	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：ヘマミガナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にない にない	京VII期中 ～ 京VII期新
22	63	SK27	2 番	土師器	大皿	13.0	(2.7)	(7.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：ヘマミガナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	にない にない	京VII期中 ～ 京VII期新
22	64	SK27	2 番	土師器	大皿	13.0	2.55	5.3	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ	内：7.5YR7/6 外：7.5YR6/6	穠 穠	京VII期中 ～ 京VII期新
23	65	SK27	2 番	土師器	大皿	(13.9)	1.8	(12.3)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ナデ	内：10YR8/3 外：10YR8/3 N5/	浅黄褐 浅黄褐 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	66	SK27	2 番	土師器	皿	(11.5)	(3.0)	(5.6)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面トテ 内面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ナデ	内：10YR8/3 外：10YR8/3 7.5YR5/6	浅黄褐 浅黄褐 明灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	67	SK27	2 番	瓦器	皿	(14.6)	(2.8)	(6.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ	内：N4/ 外：N4/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	68	SK27	2 番	瓦器	椀	(12.5)	(3.8)	-	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ナデ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ	内：N4/ 外：N4/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	69	SK27	2 番	瓦器	椀	(12.8)	(4.0)	(4.2)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：摩打のため不明瞭	内：N4/ 外：N4/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	70	SK27	2 番	瓦器	椀	(14.2)	(4.1)	-	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：摩打のため不明瞭	内：NS/ 外：NS/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	71	SK27	2 番	瓦器	椀	(12.0)	3.7	(3.6)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：不明瞭	内：N4/ 外：N4/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	72	SK27	2 番	瓦器	椀	12.0	3.4	7.6	外面：口縁部ヨコナデ 体輪ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：斜め文	内：N4/ 外：NS/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	73	SK27	2 番	瓦器	椀	12.1	4.1	7.1	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：ジグザク文	内：NS/ 外：NS/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	74	SK27	2 番	瓦器	椀	(13.2)	3.1	(6.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：ジグザク文	内：NS/ 外：NS/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	75	SK27	2 番	瓦器	椀	11.3	3.5	6.3	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：摩打のため不明	内：7.5Y4/1 7.5Y4/1 外：7.5Y4/1	灰 灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新
23	76	SK27	2 番	瓦器	椀	(11.7)	3.55	5.6	外面：口縁部ヨコナデ 体輪・底面ヨコサエ 内面：ヘマミガナデ 口縁部ヨコナデ 縦文：斜格子文	内：NS/ 外：NS/ 灰	灰 灰	京VII期中 ～ 京VII期新

表3 遺物観察表5

図 番号	遺物 名	遺物 基本形	部位	器 種	器 形	口 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	底径・ 最高径 (cm)	形成方法の特徴・文様等	色 調	備考 (時期・発見状況)
24 77 SK27	2層	瓦器	腹	(40.5) (6.6)	-	外側：口縁部コナデ 体部：ビオサエ 内側：口縁部・体部ナデ	内：2.5Y4/1 外：2.5Y4/1	黄灰 黄灰	京難期中 京難期新			
24 78 SK27	2層	瓦器	腹	(42.0) (7.15)	-	外側：口縁部コナデ 体部：ビオサエ 内側：口縁部・体部ナデ	内：2.5Y4/1 外：2.5Y7/2	黄灰 黄	京難期中 京難期新			
25 79 SD2	3層	土師器	皿	5.2 (1.2)	(2.5)	外側：口縁部コナデ 体部：ビオサエのちナデ 内側：口縁部コナデ 体部：ビオサエのちナデ	内：7.5YR6/4 外：10YR6/4	に赤い に赤い 黄褐	京難期中 京難期新			
25 80 SD2	3層	土師器	皿	5.6 1.2	1.6	外側：口縁部コナデ 体部：底部スコオサエのちナデ 内側：口縁部コナデ 体部：底部ナデ	内：2.5Y7/2 10YR6/4 外：10YR2/4	灰黄 に赤い 黄褐 に赤い 黄褐	京難期中 京難期新			
25 81 SD2	3層	土師器	皿	(10.6) (1.95)	-	外側：口縁部コナデ 体部：底部スコオサエのちナデ 内側：口縁部コナデ 体部：底部ナデ	内：7.5YR5/1 7.5YR4/1 外：7.5YR5/1 7.5YR4/1 断：5W4/2	褐 灰 灰 灰 明灰 明灰	京難期中 京難期新			
25 82 SD2	3層	土師器	皿	8.5 1.2	6.0	外側：口縁部コナデ 底部：ビオサエのちナデ 内側：口縁部コナデ 底部：ビオサエのちナデ	内：7.5YR7/6 7.5YR8/4 外：7.5YR6/6	柏 代黄褐 柏	京難期中 ~ 京難期新			
25 83 SD2	3層	縦輪向器	皿	- (1.8)	(7.9)	外側：縦輪 高台へラケヅリ 内側：縦輪 見込み鉢 2条あり	内：7.5Y6/3 7.5Y6/3	オリーブ黄 オリーブ黄	近江森 京難期新 京の朝古			
25 84 SD2	3層	陶器	皿	- (2.3)	(5.6)	外側：灰輪 体部下平・高台へラケヅリ 内側：斜縫隙 見込み鉢/日輪剥ぎ	内：7.5Y4/1 10YR5/1 外：2.5Y7/2 2.5Y7/2 断：10YR8/1	明灰 灰 灰 白 白	肥前系 京難期新			
25 85 SD2	3層	陶器	皿	(13.0) 2.95	5.0	外側：灰輪 下部・高台へラケヅリ 内側：灰輪	内：7.5Y3/2 2.5Y7/1 5Y5/3	灰オリーブ 灰 灰オリーブ	肥前系 京難期新			
25 86 SD2	3層	陶器	皿	(13.5) (2.75)	5.0	外側：灰輪 体部下部・高台へラケヅリ 内側：斜縫隙 見込み鉢/日輪剥ぎ	内：7.5Y4/2 2.5Y7/2 外：5Y5/4	灰オリーブ 灰 オリーブ	肥前系 京難期新			
25 87 SD2	3層	陶器	皿	(18.4) (3.9)	-	外側：灰輪 体部へラケヅリ 内側：斜縫隙 見込み鉢/日輪剥ぎ	内：10G6/1 5Y7/2	疑灰 灰白	肥前系 京難期新			
25 88 SD2	一括 3層	陶器	美容手皿	44.6 ~ 44.9	5.1	8.8	外側：口石縫 器皿入り 内側：口石縫 器皿入り 花文	内：7.5Y8/1 7.5Y8/1	灰白 灰白	吉田不明 京難期新		
25 89 SD2	3層	陶器	大鉢	(30.6) 8.95	11.85	外側：灰輪 体部下部・高台へラケヅリ 内側：筋毛目 5残存	内：10YR8/1 10YR4/2 外：10YR4/2 7.5YR5/4	灰白 灰 灰 灰 白	肥前系 京難期中 京難期新			
25 90 SD2	3層	陶器	皿	- (7.9)	7.3	外側：灰輪 体部下部・底部へラケヅリ 内側：	内：2.5Y8/1 10YR4/1 外：10YR4/2 7.5YR5/3	灰 灰 灰 灰 白	糸戸 美濃造 京難期中 以降			
25 91 SD2	3層	軟質施釉 陶器	灯明皿	(11.4) (2.2)	-	外側：口縁部切付 内側：施釉 櫛目状の文様	内：N3/ 5YR6/8 外：N3/ 5YR6/6	明灰 树 明灰 树	京都府 京難期新 以降			
25 92 SD2	3層	白磁	皿	(12.0) (2.75)	7.2	外側：施釉 内側：施釉	内：白	白	肥前系 京難期新			
25 93 SD2	3層	白磁	皿	(12.6) 2.9	(6.9)	外側：施釉 内側：施釉 嘴付に付着	内：白	白	肥前系 京難期新			
25 94 SD2	3層	白磁	皿	(13.0) 2.6	(7.0)	外側：施釉 内側：施釉 嘴付に付着	内：10CY8/1 10CY8/1	明暗灰(輪) 明暗灰(輪)	肥前系 京難期新			
25 95 SD2	3層	白磁	皿	(13.1) (2.7)	(6.7)	外側：施釉 内側：施釉	内：白	白	肥前系 京難期新			
25 96 SD2	3層	白磁	皿	(13.2) (2.8)	(7.5)	外側：施釉 内側：施釉 嘴付に付着	内：7.5GY8/1 7.5GY8/1	明暗灰 明暗灰	肥前系 京難期新			
26 97 SD2	3層	白磁	輪花皿	6.2 1.6	2.5	外側：施釉 内側：施釉 嘴付に付着	内：5GY8/1 5B6/1 外：7.5GY8/1 5B6/1	明暗灰 青灰 明暗灰 青灰	肥前系 京難期新 以降			
26 98 SD2	3層	白磁	皿	(13.8) (3.15)	5.2	外側：口縁部に付着 内側：口縁部と見込みに五重輪	内：白	白	肥前系 京難期新			

表3 遺物観察表6

図 番号	遺物 番号	遺構 基本番	層位	器種	器 形	口 (cm)	径 (cm)	高 (cm)	底径 + 高さ(合計 (cm))	形成技法の特徴・文様等	色調	備考 (時期・実地分類)
26	99	SD2	4 番	土師器	始端部	-	(5.9)	-	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 体部ナデ	内：10YR3/2 黒褐 10YR5/2 にぶい黄褐 外：10YR8/2 底白 10YR7/3 にぶい黄褐	京Ⅳ期中	
26	100	SD2	9 番	土師器	小皿	(8.6)	1.45	(4.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ	内：7.5YR8/3 浅黄褐 外：7.5YR8/3 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	101	SD2	9 番	土師器	小皿	(9.0)	1.5	(5.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：10YR7/3 にぶい黄褐 外：10YR7/3 にぶい黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	102	SD2	9 番	土師器	大皿	(13.6)	2.3	(7.0)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：10YR8/2 底白 外：10YR8/2 底白	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	103	SD2	9 番	土師器	大皿	(11.2)	1.95	(6.2)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：7.5YR8/3 浅黄褐 外：7.5YR8/2 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	104	SD2	10 番	土師器	小皿	(7.7)	(1.2)	(6.8)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：7.5YR7/4 にぶい粉 外：7.5YR7/4 にぶい粉	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	105	SD2	10 番	土師器	小皿	8.7	1.45	4.2	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：10YR8/3 浅黄褐 外：10YR8/3 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	106	SD2	10 番	土師器	小皿	(9.0)	(1.15)	(5.6)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：10YR8/3 浅黄褐 外：10YR8/4 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	107	SD2	10 番	土師器	大皿	(12.2)	(1.95)	(6.6)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ	内：10YR8/3 浅黄褐 外：10YR8/3 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	108	SD2	10 番	土師器	大皿	(13.0)	2.1	(7.6)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底ナデ ユビオサエ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底コナデ ユビオサエ	内：7.5YR7/4 にぶい粉 外：7.5YR7/4 にぶい粉	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	109	SD2	10 番	土師器	大皿	(12.8)	(1.85)	(8.4)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR8/4 浅黄褐 10YR7/4 にぶい黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄褐 10YR8/3 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	110	SD2	10 番	土師器	大皿	(13.6)	(2.4)	(8.4)	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：10YR7/4 にぶい黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	111	SD2	10 番	土師器	大皿	13.2	1.35	7.1	外面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ 内面：口縁部ヨコナデ 体部・底部ユビオサエのちナデ	内：7.5YR8/4 浅黄褐 外：10YR8/4 浅黄褐	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	112	SD2	13 番	陶器	楕	-	(3.5)	4.5	外面：脚輪 体部下部・轟台へタケゼリ 内面：灰	内：2.5Y7/2 底黄 外：7.5G5/1 明緑灰 2.5Y7/3 淡黄	肥前系 京Ⅲ期中	
26	113	SD2	13 番	磁器	皿	-	(2.8)	(7.6)	外面：脚輪 内面：見込み草花文 肩文 貫入あり	内：白 外：白	肥前系 京Ⅲ期新	
26	114	SD2	一括	瓦器	楕	(12.6)	(4.8)	4.0	外面：脚輪 内面：ヘルミガホ 口縁部ヨコナデ 縫合：らんなん	内：NA/ 底灰 外：NA/ 底灰 2.5Y8/1 底白	京Ⅳ期中 ～	京Ⅳ期新
26	115	SD2	一括	磁器	小杯	5.1	2.95	2.4	外面：山水文 顯輪 内面：施釉	内：白 外：白	肥前系 京Ⅲ期古 京Ⅳ期中	
27	116	SK11	一括	陶器	皿	(12.4)	3.7	4.6	外面：反輪 内面：底輪	内：10YR8/1 底白 10YR8/2 底白 外：10YR8/2 底白 10YR7/2 にぶい黄褐	肥前系 京Ⅳ期新	
27	117	SK11	一括	磁器	鉢	23.1	5.9	11.1	外面：李明文 二重顯輪 内面：游文 早花文 太湖石 顯輪	内：白 外：白	肥前系 京Ⅲ期古 以降	
27	118	SK11	一括	磁器	水滴	-	2.0	5.25	外面：型輪の草花文 内面：見込み 内面：幾何幾何文	内：白 外：白	肥前系 京Ⅲ期古 以降	

表3 遺物観察表7

図 番号	遺物 番号	通稱 基本番	部位	器種	器形	口 (cm)	底 (cm)	底径・ 高さ (cm)	形成法の特徴・文様等	色調	備考 (時期・発見地)	
27	119	SK23	2層	陶器	皿	(12.2)	(2.65)	4.2	外面：灰褐色 底面：平底下へラケヅリ 内面：白釉 足込み脚付着	内：2.5Y7/3 外：2.5Y7/3 2.5Y7/4	淡黄 淡黄 淡黄	肥前系 京焼商店 京焼断
27	120	SK23	2層 3層	陶器	背向付	(0.9)	(0.5)	4.7	外面：長石貼 内面：白釉 内面：白石貼 内面：白人あり	内：2.5Y7/1 10YR4/3 外：5Y7/1 5Y6/1	灰白 にふい黄褐 灰白 灰白	太野 京焼断
27	121	SK23	2層	陶器	背向付	-	(2.9)	4.3	外面：長石貼 内面：白人あり 内面：長石貼 内面：白人あり	内：7.5Y7/1 7.5Y7/1	灰白 灰白	太野 京焼断
27	122	SK23	2層 3層	陶器	盤	32.5	14.8	13.4	外面：体部中央ビオサエ 内面：盤口1条7本 体部下平～底部使用により摩耗	内：10YR6/4 外：10YR6/4	にふい橙 にふい橙	丹波窑 京焼断
27	123	SK23	2層	磁器	碗	10.2	7.3	4.2	外面：豆花文 内面：墨文	内：2.5Y8/1 2.5Y8/1	灰白 灰白	肥前系 京焼断
27	124	SK25	一括	土師器	鉢	(8.6)	(3.2)	(3.0)	外面：口縁部コナデ 底部：底部ビオサエのちナデ 内面：口縁部コナデ 底部：底部ナデ	内：10YR8/2 外：10YR8/2 10YR8/3	浅黄褐 浅黄褐 浅黄褐	肥前系 京焼断古 以降
27	125	P17	一括	土師器	焰燒鍋	(37.2)	(5.1)	-	外面：口縁部コナデ 底部：底部ビオサエのちナデ 内面：口縁部コナデ 底部：底部ナデ	内：10YR8/3 7.5YR7/4 外：10YR7/4	浅黄褐 にふい橙 にふい橙	京焼断中
28	126	包含層	50層	土師器	皿	(11.6)	(1.1)	-	外面：口縁部コナデ 底部：底部ビオサエのちナデ 内面：口縁部コナデ 底部：底部ナデ	内：2.5YR8/3 外：2.5YR8/3	淡黄 淡黄	京N断
28	127	包含層	50層	土師器	皿	(11.4)	(1.3)	-	外面：口縁部コナデ 底部：底部ビオサエのちナデ 内面：口縁部コナデ 底部：底部ナデ	内：10YR7/4 外：10YR7/4	にじむ にじむ 黄褐 黄褐	京N断
28	128	包含層	50層	鍍輪輪器	小輪	-	1.6	4.3	外面：輪脚 内面：輪脚下へラケヅリ 内面：鍍輪輪	内：10Y7/2 外：10Y7/2 2.5Y7/1	灰白 灰白 灰白	山城窑 京N断 京N断

表4 遺物観察表1(瓦)

図 番号	遺物 番号	通稱 基本番	部位	器種	器形	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	形成法の特徴・文様等	色調	備考 (時期・発見地)
28	129	建物1 P14	2層	瓦	丸瓦	(25)	(13.4)	1.8	凸面：彌日明き 凹面：布目板 コピキ A	内：7.5 Y 6/1 凸：NG/ 灰	平安時代
28	130	建物1 P15	2層	瓦	平瓦	(11.1)	(13.3)	1.9	凸面：彌日明き 凹面：布目板	内：7.5 Y 6/1 凸：5 Y 6/1 灰	平安時代
29	131	建物1 P15	2層	瓦	平瓦	(27)	(12.6)	2.5	凸面：摩拭 凹面：布目板 工具痕	内：5 Y 6/1 N5/ 灰 凸：2.5Y8/2 3 Y 6/1 灰	平安時代
29	132	建物1 P21	2層	瓦	平瓦	(13.0)	(15.7)	2.3	凸面：彌日明き 凹面：布目板 コピキ A	内：N4/ 灰 凸：N4/ 灰	平安時代
29	133	建物1 P24	2層	瓦	平瓦	(14.8)	(15.8)	2.3	凸面：彌日明き 凹面：布目板	内：N5/ 灰 凸：N5/ 灰	平安時代
30	134	建物2 P2	5層	瓦	平瓦	(14.6)	(16.9)	2.3	凸面：ナデ 底面：鍍骨板 布目板	内：2.5 Y 7/2 7.5YR8/2 凸：2.5 Y 7/1 3 Y 5/1 灰	平安時代
30	135	SK17	2層	瓦	軒平瓦	-	(8.5)	(1.1)	瓦当：ナデ 唐草文 珠文 罫輪	内： 外：N4/ 灰 2.5Y4/1 黄灰	平安時代
30	136	SK21	1層	瓦	軒平瓦	(10.6)	(11.5)	3.4	瓦当：唐草文 珠文 罫輪 内面：ナデ 内面：彌日明き	内：2.5Y6/1 ~ 5/1 外：2.5Y8/1 黄灰	平安時代 後削
30	137	SD2	3層	瓦	軒丸瓦	(16.0)	(13.6)	2.6	瓦当：墨書き六葉蓮華文 内面：ユビオサエ ナデ	内：N5/ 灰 外：N5/ 灰	平安時代 初期



# 図 版





1 第2面 完掘状況（東から）



2 第1面 完掘状況（東から）



3 確認調査 Tr1 完掘状況（北東から）



4 確認調査 Tr2 完掘状況（南から）



5 調査区北壁 全景（南西から）



6 調査区南壁 全景（北西から）



7 調査区東壁 全景（西から）



8 調査区西壁 全景（南東から）



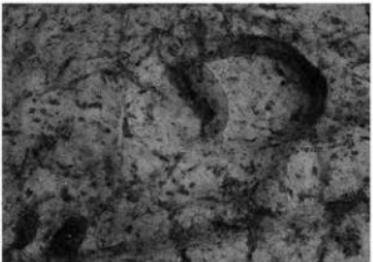
9 確認調査 Tr1 西壁 全景（東から）



10 確認調査 Tr2 北壁 全景（南東から）



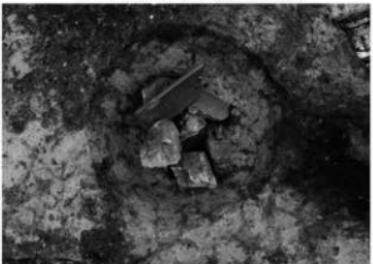
11 建物 1 完掘全貌（西から）



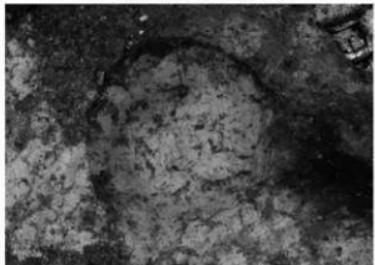
12 建物 1-P18 完掘状況（南から）



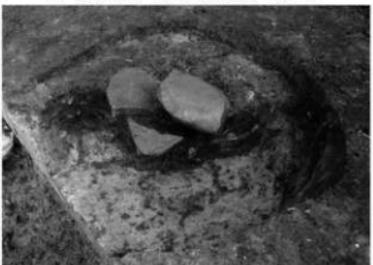
13 建物 1-P15 断面（南から）



14 建物 1-P15 根固め検出状況（南から）



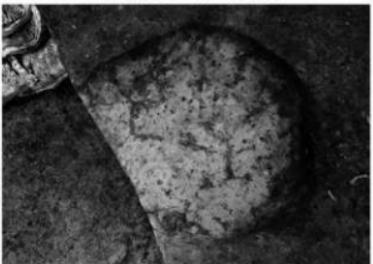
15 建物 1-P15 完掘状況（南から）



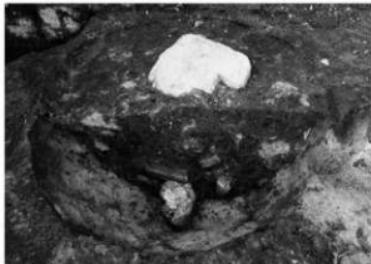
16 建物 1-P21 断面（南から）



17 建物 1-P21 根固め検出状況（南から）



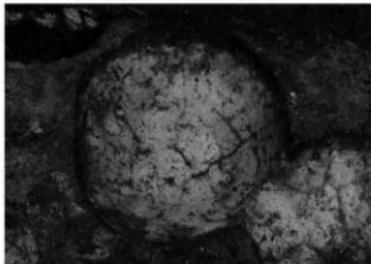
18 建物 1-P21 完掘状況（南から）



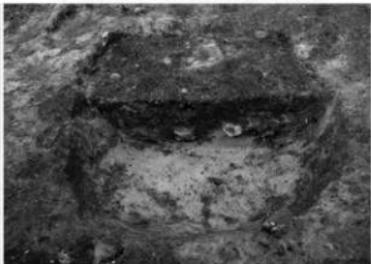
19 建物 1-P14 断面（南から）



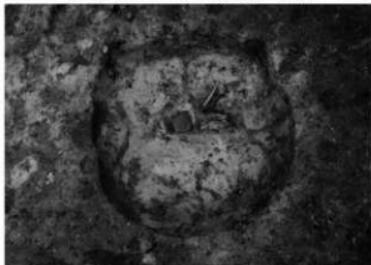
20 建物 1-P14 根固め検出状況（南から）



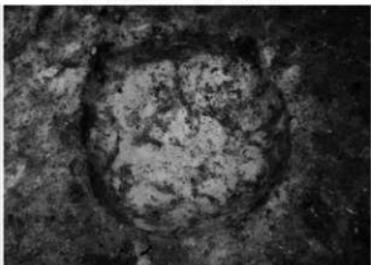
21 建物 1-P14 完掘状況（南西から）



22 建物 1-P22 断面（南から）



23 建物 1-P22 根固め検出状況（南から）



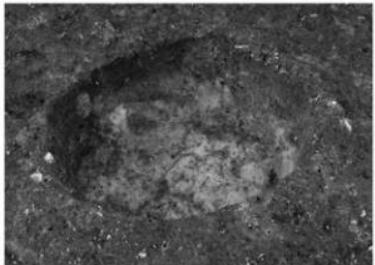
24 建物 1-P22 完掘状況（南から）



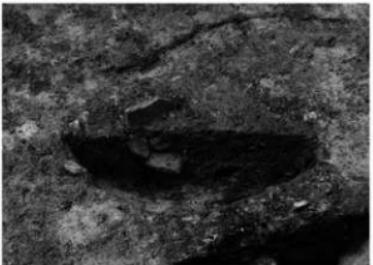
25 建物 1-P11 断面（南東から）



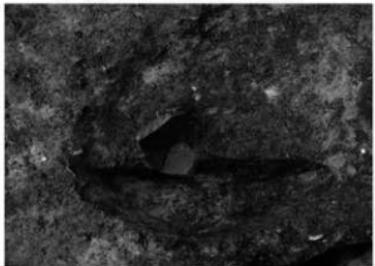
26 建物 1-P11 根固め検出状況（南東から）



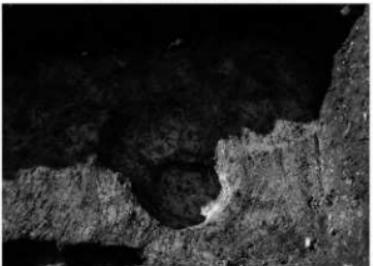
27 建物 1-P11 完掘状況（南東から）



28 建物 1-P54 断面（東から）



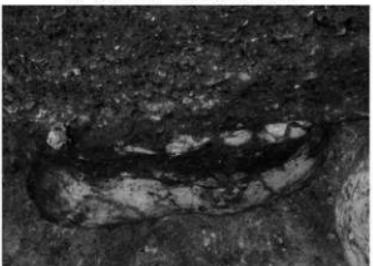
29 建物 1-P54 根固め検出状況（東から）



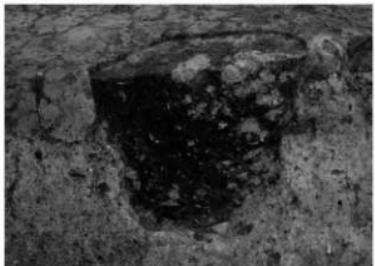
30 建物 1-P54 完掘状況（東から）



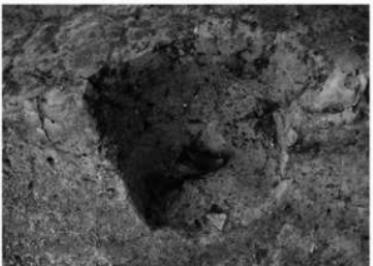
31 建物 2・3 完掘全景（東から）



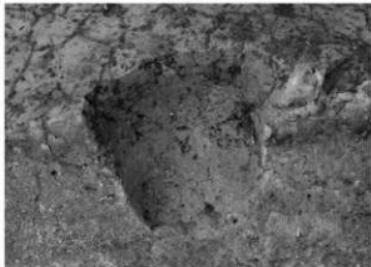
32 建物 2-P1 完掘状況（南から）



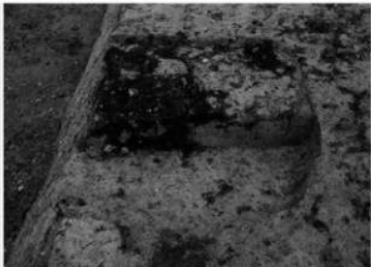
33 建物 2-P2 断面（南から）



34 建物 2-P2 根固め検出状況（南から）



35 建物 2-P2 完掘状況（南から）



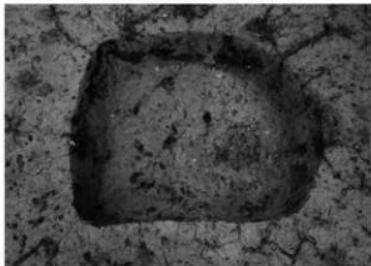
36 建物 2-P3 断面（西から）



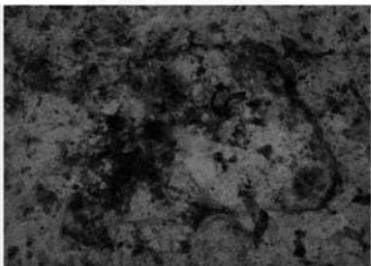
37 建物 2-P3 完掘状況（西から）



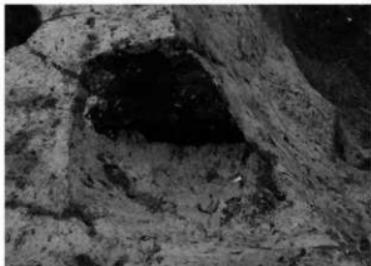
38 建物 2-P4 断面（西から）



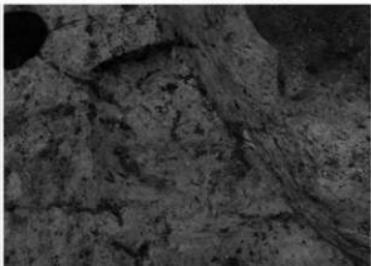
39 建物 2-P4 完掘状況（西から）



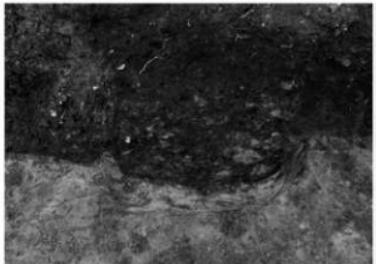
40 建物 2-P5 完掘状況（東から）



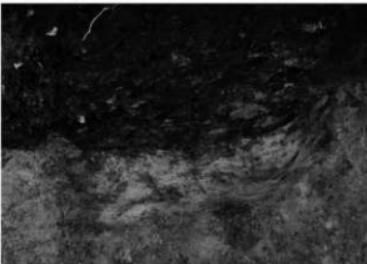
41 建物 2-P6 断面（東から）



42 建物 2-P6 完掘状況（東から）



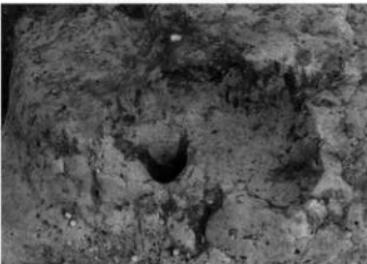
43 建物 2-P7 断面（東から）



44 建物 2-P7 完掘状況（東から）



45 建物 3-P1 断面（南から）



46 建物 3-P1 完掘状況（南から）



47 建物 3-P2 断面（南から）



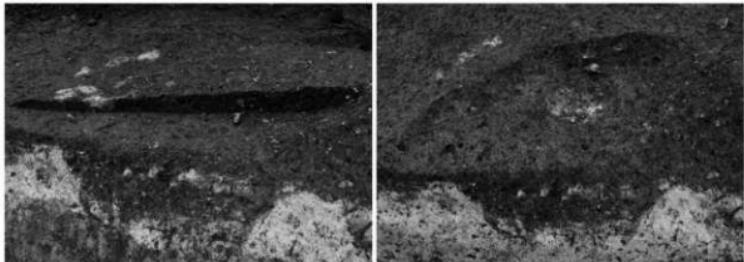
48 建物 3-P2 完掘状況（南から）



49 建物 3-P3 断面（南から）

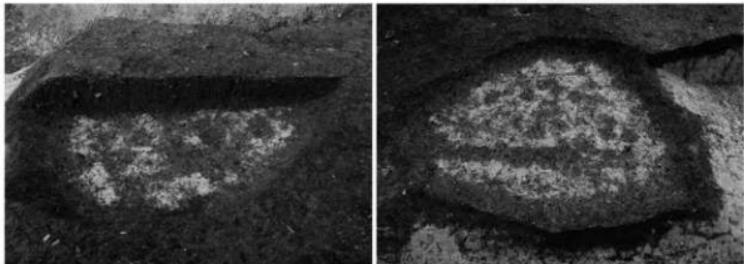


50 建物 3-P3 完掘状況（南から）



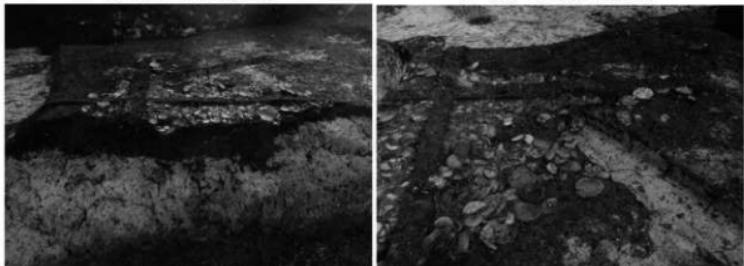
51 SK20 断面（北から）

52 SK20 完掘状況（北から）



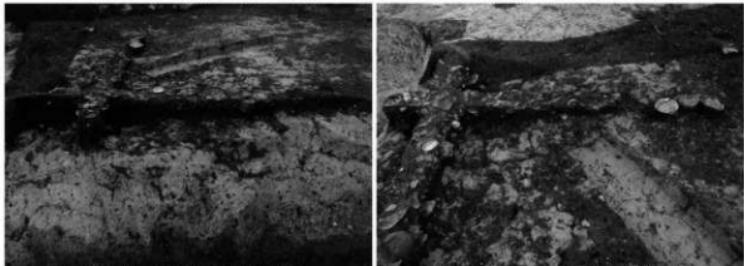
53 SK21 断面（南から）

54 SK21 完掘状況（北から）



55 SK27A 断面 上層堆積状況（北から）

56 SK27B 断面 上層堆積状況（西から）



57 SK27A 断面 下層堆積状況（北から）

58 SK27B 断面 下層堆積状況（西から）



59 SK27 遺物出土状況（西から）



60 SK27 完掘状況（西から）



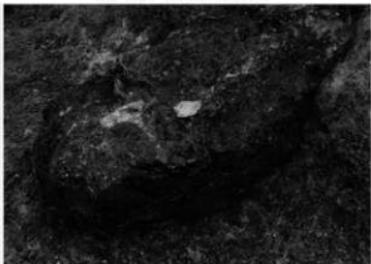
61 SD2 A 断面（西から）



62 SD2 B 断面（西から）



63 SD2 北壁堆积状況（南から）



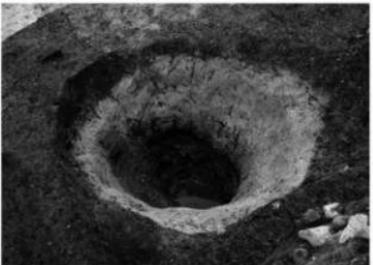
64 SD2B 断面 10層堆积状況（西から）



65 SD2 完掘状況（西から）



66 SE2 断面（南西から）



67 SE2 完掘状況（南西から）



68 SE3 断面（北から）



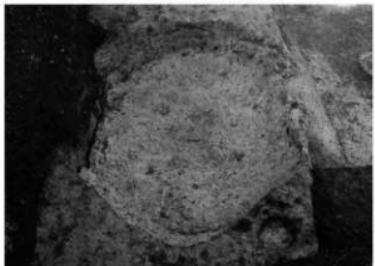
69 SE3 完掘状況（南から）



70 SK11 完掘状況（南から）



71 SK23 断面（南から）



72 SK23 完掘状況（南から）



73 SK25 完掘状況（南から）



建物 1-P15.2 破片 (図 20-2)、建物 1-P21.1 破片 (図 20-3)、SK20.1 破片 (図 20-6・7)、SK21.1 破片 (図 21-9～16)、SK27.2 破片 (図 22-21～24)

平安時代後期・鎌倉時代の遺構出土遺物



図 22-25



図 22-26



図 22-27



図 22-28



図 22-29



図 22-30



図 22-31



図 22-32



図 22-33



図 22-34



図 22-35



図 22-36



図 22-37



図 22-38



図 22-39



図 22-40

SK27.2 層 (図 22-25 ~ 40)

鎌倉時代の遺構出土遺物



図 22-41



図 22-42



図 22-43



図 22-44



図 22-45



図 22-46



図 22-47



図 22-48



図 22-49



図 22-50



図 22-51



図 22-52



図 22-53



図 22-54



図 22-55



図 22-56

SK27 2 層 (図 22-41 ~ 56)

鎌倉時代の遺構出土遺物



SK27 2 層 (図 22-57 ~ 64、図 23-65 ~ 66 + 71 ~ 74)

鎌倉時代の遺構出土遺物



図 23-75



図 23-76



図 25-79



図 25-81



図 25-80



図 25-82



図 25-84



図 25-88\_1



図 25-86



図 25-88\_2

SK27 2 層 (図 22-75・76)、SD2 3 層 (図 25-79～82・84～86・88)

鎌倉時代・近世の遺構出土遺物



図 25-89



図 25-92



図 25-90



図 25-93



図 25-94



図 25-95



図 26-97



図 25-96



図 26-98



図 26-100



図 26-101



図 26-102



図 26-103



図 26-104

SD2 3 層（図 25-89・90・92～96、図 26-97・98）、SD2 9 层（図 26-100～103）、SD2 10 层（図 26-104）

近世の遺構出土遺物



SD2 10 層 (図 26-105 ~ 111)、SD2 13 層 (図 26-112・113)、SD2 一括 (図 26-114・115)  
SK11 (図 27-116)、SK23 2 段 (図 27-119)

近世の遺構出土遺物



図 27-117\_1



図 27-118



図 27-117\_2



図 27-120



図 27-122



図 27-121



図 27-124



図 27-123

SK11 (図 27-117・118)、SK23 (図 27-120～123)、SK25 (図 27-124)

近世の遺構出土遺物



図 20-1



図 20-4



図 20-5



図 20-8



図 21-17

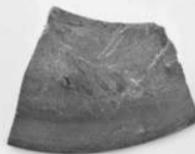


図 21-19



図 21-18



図 22-20



図 23-68



図 23-67

建物 1-P21.2 層（図 20-1）、建物 1-P11.2 層（図 20-4）、SK20.1 層（図 20-5・8）、SK21.1 層（図 21-17～19）、  
SK27.2 層（図 21-20、図 23-67・68）

平安時代後期・鎌倉時代の遺構出土遺物

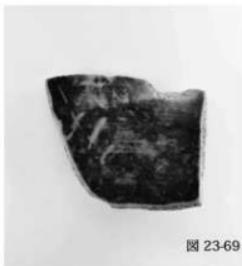


図 23-69



図 24-77

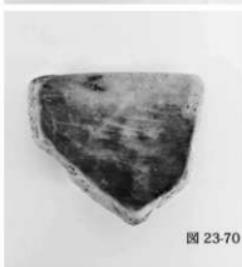


図 23-70

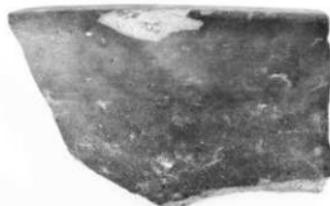


図 24-78



図 25-83

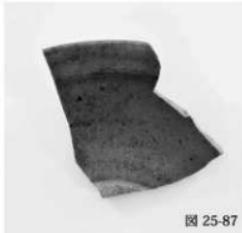


図 25-87



図 25-91



図 26-99

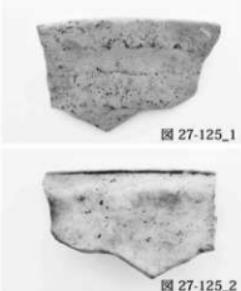


図 27-125\_1

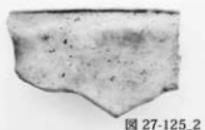


図 27-125\_2

SK27.2 層 (図 23-69・70、図 24-77・78)、SD2.3 層 (図 25-83・87・91)、SD2.4 層 (図 26-99)、P17 (図 27-125)

鎌倉時代・近世の遺構出土遺物



図 28-126

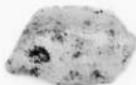


図 28-127



図 28-128



図 28-129\_1



図 28-129\_2



図 28-130\_1



図 28-130\_2



図 29-132\_1



図 29-132\_2



図 29-131\_1



図 29-131\_2



図 29-133\_1



図 29-133\_2



図 30-134\_1



図 30-134\_2



図 30-135



図 30-136



図 30-137

包含層 50 層（図 28-126～128）、建物 1-P14 2 層（図 27-129）、建物 1-P15 2 層（図 28-130、図 29-131）、建物 1-P21 2 層（図 29-132）、  
建物 1-P54 2 層（図 29-133）、建物 2-P2 5 层（図 30-134）、SK17 2 层（図 30-135）、SK21 1 层（図 30-136）、SD2 3 层（図 30-137）  
平安時代後期・鎌倉時代・近世の遺構、包含層の出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	平安京右京一条二坊四町跡						
書名	平安京右京一条二坊四町跡						
副書名							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	長林 大						
編集機関	国際文化財株式会社 西日本支店						
所在地	〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町1丁目1番15号						
発行機関	国際文化財株式会社 西日本支店						
発行年月日	西暦2017(平成29)年12月20日						

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°'."	東経 °°'."	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京右京 一条二坊 四町跡	京都府 京都市 上京区 御前通 下立売下る 下之町 412-1	26100	1	35° 01' 82"	135° 44' 49"	2016年 11月17日 ～ 2017年 1月13日	168	簡易宿所 建設工事 に伴う 発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京右京 一条二坊 四町跡	都城跡	平安・鎌倉 ・近世	建物・溝・土坑 ・土取り穴・井戸	土師器・須恵器・ 黒色土器・縁軸陶 器・灰釉陶器・瓦 器・陶磁器・瓦	
要約	本調査区は、平安京右京一条二坊四町に位置する。本調査では平安時代中期以降の包含層を検出し、その上面において、平安時代後期の建物跡、鎌倉時代の廐塗土坑等を検出した。また、同検出面において、近世の区画溝、土取り穴、井戸を検出し、検出状況から、平安時代から近世にかけての土地利用の変化と、居住域として使用される際は、平安時代からの上地区画が踏襲されていることが確認された。				

## 平安京右京一条二坊四町跡

発行年月日／2017（平成29）年12月20日

編集・発行／国際文化財株式会社 西日本支店

〒660-0805 尼崎市西長洲町1丁目1番15号

TEL：06-4868-5980 FAX：06-4868-5981

印 刷／三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地

TEL075-256-0961